



GUITAR AMPLIFIER

MUSTANG GT40
MUSTANG GT100
MUSTANG GT200



オーナーズマニュアル(増補版)
REV. A

Fender®

目次

はじめに	1
コントロールパネル	2
背面パネル	3
プリセット	
プリセットの基本	4
プリセットの編集と保存	5
プリセットアンプリファーコントロールノブ設定の編集	6
プリセットアンプリファーモデルの置き換え	8
アンプリファーモデルのリスト	9
エフェクトの編集	10
エフェクト設定の編集	18
エフェクトタイプのリスト	21
メニュー機能	25
セットリスト	26
WiFi の使用	28
Bluetooth の使用	31
内蔵チューナー	32
AUXおよびヘッドフォンジャック	33
USB 接続	33
ライン出力およびFXセンド／リターン	33
フットスイッチの使用	
MGT-4 フットスイッチ	34
ルーパー	38
EXP-1 エクスプレッションペダル	41
アンプ設定	45
グローバル EQ	46
クラウドプリセット	47
このアンプについて	48
ファームウェアアップデートおよび工場出荷状態への復元	49
Fender Tone™ アプリ	51
仕様	52

はじめに

この増補版オーナーズマニュアルは、Mustang GT40、GT100およびGT200の機能を網羅した、ユーザー向けガイドです。

Mustang GTの各アンプリファァーに付属する「Mustang GT クイックスタートガイド」を相補する本マニュアルは、本機のさまざまな機能について、詳しく掘り下げて解説します。このマニュアルには、多数ある内蔵プリセットの操作方法や編集方法、アンプリファァーおよびエフェクトモデルについて、総合的に解説します。さらに、Mustang GTのセットリスト、WiFi、Bluetooth、USB、内蔵チューナー、EXP-1エクスプレッションペダル、MGT-4 フットスイッチおよびループ機能についても解説します。

Mustang GTが創り出す音色は、さらにFender Tone™と併用すれば、無限と言っても過言ではありません。Mustang GTの性能向上、機能拡張をご利用いただくため、定期的にファームウェアアップデートの有無をご確認ください(49ページ参照)。この増補版マニュアルではアンプリファァーの最新バージョンについて解説しておりますが、Mustang GTファミリーの進歩・進化に応じて、さらにお役立ていただけるよう、マニュアルを更新していきますので、どうぞこちらも折に触れてチェックしてください。



Mustang GT100 (左上)、Mustang GT200 (右上) および Mustang GT40 (前中央)。

コントロールパネル

Mustang GTのトップコントロールパネルは、インストールメント入力、コントロールノブ(Mustang GT100およびGT200では7個、Mustang GT40は5個)、ディスプレイウィンドウ、レイヤープッシュボタン3個、エンコーダーホイール、ユーティリティプッシュボタン4個、AUX入力(1/8インチ)1つ、およびヘッドフォン出力(1/8インチ)1つで構成されています。



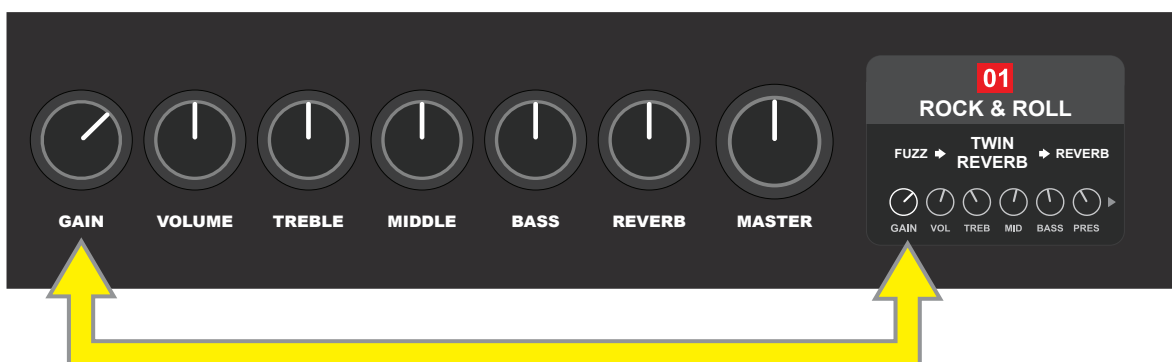
上図はコントロールノブ7個を装備したMustang GT100/GT200です;
Mustang GT40のコントロールノブは5個(gain, volume, treble, bass, master volume)です。

- A. **INPUT(入力):** 楽器をここに入力します。
- B. **GAIN(ゲイン):** 各プリセットのゲイン設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ (3ページ参照)。
- C. **VOLUME(音量):** アンプモデルの各プリセットの音量設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ。
- D. **TREBLE(高域):** 各プリセットの高域トーン設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ。
- E. **MIDDLE(中域、Mustang GT100 および GT200のみ):** 各プリセットの中域トーン設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ。
- F. **BASS(低域):** 各プリセットの低域トーン設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ。
- G. **REVERB(Mustang GT100および GT200 のみ):** 各プリセットのリバーブ設定に使用する、プログラマブル コントロールノブ。
- H. **MASTER VOLUME(マスター音量):** 実際の全体的な音量を制御する、唯一の非プログラマブルノブ。
- I. **ディスプレイウィンドウ:** 使用中のプリセットとそのすべてのコンテンツおよび値、アンプリファーマーおよびエフェクトメニュー、ほか諸機能を表示します (例: チューナー、メニュー機能、ほか)。
- J. **レイヤーボタン**
プリセットレイヤー: プリセットを選択する、プリセットレイヤーを表示します。
シグナルパスレイヤー: 各プリセットの信号経路を表示します。アンプモデル、エフェクトタイプおよびエフェクトの順番を変更します。
コントロールレイヤー: コントロールレイヤーを表示します。コントロールノブ設定を変更できます(マスター音量以外)。
- K. **エンコーダー:** 多目的の回転式コントローラーで、プレススイッチ機能も備えています。Mustang GTのプリセット、コントロール類、その他の機能の閲覧、選択および調節をおこないます。
- L. **ユーティリティボタン**
X FX: 全エフェクトをバイパスします。
SAVE(保存): プリセットに加えた変更、および新規プリセットを保存します。
MENU(メニュー): WiFi、Bluetooth、チューナー、グローバルGlobal EQ、クラウドプリセットほかの機能にアクセスするためのボタン (28ページ参照)。

TAP(タップ): ディレイタイムおよびモジュレーションレートを設定するためのボタン; ホールドすると内蔵チューナーにアクセスします。

- M. **AUX入力、ヘッドフォン出力:** 外部オーディオ機器を接続するための1/8インチAUX入力と、ヘッドフォンを使用するための1/8インチ出力。ヘッドフォンを接続すると、内蔵スピーカーがミュートされます。

マスター音量(H)を除くトップコントロールパネルのノブはすべて、先述のように”プログラマブル”であることをご留意ください。プログラマブルノブは、プリセットを最初に選択した時の、トップコントロールパネル上のノブの物理的な位置が、プリセットの実際の設定(実際の設定はディスプレイウィンドウに表示されます)と基本的に一致しません。マスター音量コントロールのみが**非プログラマブル**で、このノブの物理的な位置は、実際の全体音量と常に一致します。一度トップコントロールパネルのプログラマブルノブを動かすと、プリセットの値が同期し、図のように、ノブと同じ値になります:



そして、調節したコントロールノブの設定は新規プリセットとして保存可能です。またオリジナルのプリセットを調節すると、調節したコントロールノブ設定が優先されます。調節した設定を**未保存の状態**で、別のプリセットを選択したあと再選択、または電源を切ってから再度電源をオンにすると、元来プログラムされていたコントロールノブ設定に戻ります(詳しくは、5-6ページの”プリセットの編集と保存”をご覧ください)。

背面パネル

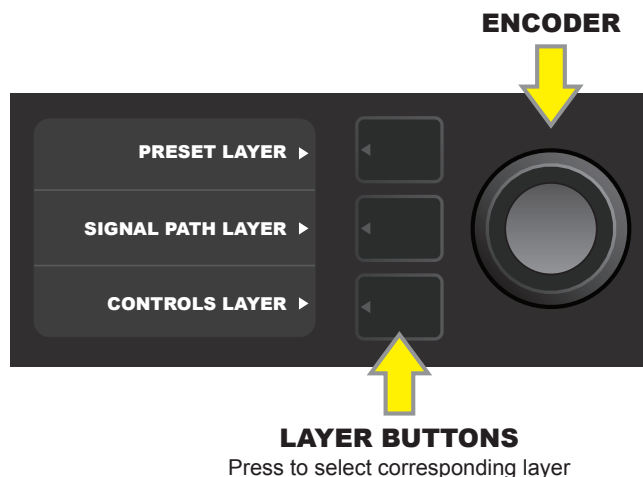


上の図はMustang GT100/GT200の背面パネルです; Mustang GT40の背面パネルはN, O, P およびQのみです。

- N. **POWER(電源):** アンプリファの電源をオン/オフします。
- O. **IEC電源コード差し込み口:** 付属の電源コードを使用して、電源インレットに記載されている入力電圧および周波数に適合した接地コンセントに接続してください。
- P. **USBポート:** USBオーディオ録音をおこなう際に使用するアンプ接続端子です。
- Q. **FOOTSWITCH(フットスイッチ):** 4ボタン式のMGT-4フットスイッチ(Mustang GT200に付属; Mustang GT100およびMustang GT40は別売)またはEXP-1エクスペッションペダルを接続します。
- R. **LINE OUT(ライン出力):** 外部録音機器および拡声機器(SR, PA機器)を接続する、バランスライン出力。
- S. **FX SEND/RETURN(FXセンド/リターン):** 外部ステレオエフェクトを使用する場合の、右/左のセンドおよびリターン端子。ここに追加したエフェクトは信号経路における最終要素となり、”グローバル”に作用(特定のプリセットに限定されない)します(GT100およびGT200のみ)。

プリセットの基本

Mustang GTには、100以上のプリセットが連続する番号で搭載されており、ユーザー自身によるプリセット作成・追加もできます。各プリセットには3つの“レイヤー”があり、各レイヤーはディスプレイウィンドウに表示されます。「PRESET LAYER」(プリセットレイヤー、上)、「SIGNAL PATH LAYER」(シグナルパスレイヤー、中央)および「CONTROLS LAYER」(コントロールレイヤー、下); の3つのレイヤーボタンで、各レイヤーへアクセスできます(下図参照)。



最初アンプリファァの電源をオンにした時に有効になっているのが、プリセットレイヤー(PRESET LAYER)です; 初期設定はプリセット「01」です。プリセットをスクロールするには、エンコーダーを回します(下図参照); 表示されているプリセットが有効となります。プリセットの選択は、フットスイッチでも可能です(36-37ページ参照)。



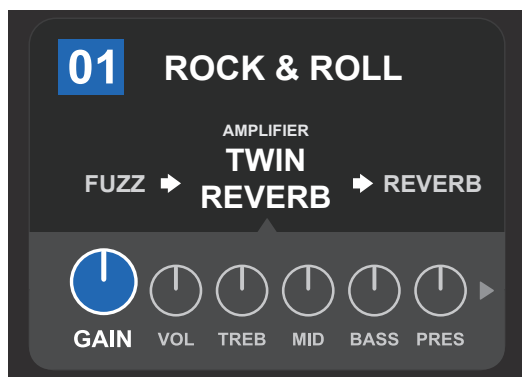
プリセットレイヤーで1番目のプリセット(01)が表示されている状態。

各プリセットのシグナルパスレイヤー(SIGNAL PATH LAYER)では、Mustang GTの数あるアンプリファァモデルのうち1つと、多数のエフェクトのうち1つ以上、そしてその接続順が表示されます(エフェクトを使用していないプリセットもあります)。アンプモデルはシグナルパスレイヤー画面の中央に表示されます。エフェクトはアンプモデルの両側に、信号パスでの位置にしたいが表示されます—アンプモデル左側のエフェクト(PRE)は、アンプの“前”に、またアンプモデル右側のエフェクト(POST)はエフェクトループ内に、それぞれ位置していることを表します。以上のアイテムはエンコーダーを回して選択します; シグナルパスレイヤーで選択されたアイテムの下には白い矢印が表示され、位置を表すテキストが上に表示されます(下図参照)。



シグナルパスレイヤーで、2つのエフェクトの間のアンプモデルを選択している状態。
白い矢印と“amplifier”というテキストが表示されています。

各プリセットのコントロールレイヤーには、シグナルパスレイヤーでハイライトしているアンプまたはエフェクトの情報が表示されます。初期状態ではアンプのコントロールノブ設定が表示されます(下図参照); シグナルパスレイヤーでエフェクトをハイライトしている場合、エフェクトのコントロール設定が表示されます。アンプおよびエフェクトのコントロール類はエンコーダーで選択します。



コントロールレイヤーの拡大図。図では、プリセットのアンプモデルの、ゲインコントロールが選択されています。

各プリセットはそのままでもご使用いただけますが、多数の異なったアンプモデル、エフェクトタイプおよびコントロール設定をお好みで選択することもできます。各プリセットのシグナルパスレイヤーおよびコントロール類レイヤーの設定は、個々のニーズに合わせ、容易に編集・保存し、ご活用いただけます(詳しくは次項“プリセットの編集と保存”をご覧ください)。

プリセットの編集と保存

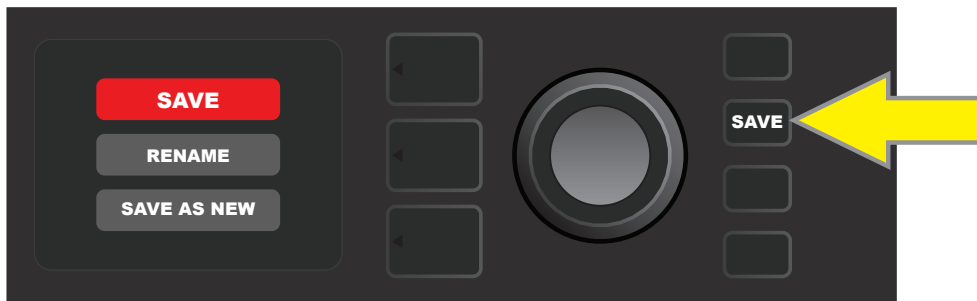
各プリセットの、アンプリファァのコントロールノブ設定、アンプモデル、エフェクトタイプおよびパラメーターは、好みに応じて編集可能です。任意のプリセット選択時、プリセット番号を囲うボックスは青色で、まだ編集を加えていないことを意味します(下図参照)。



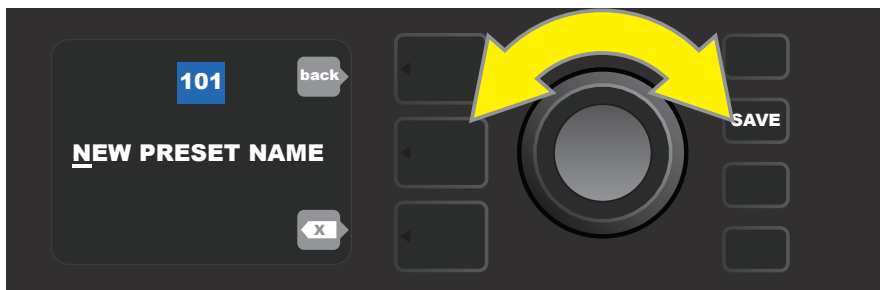
編集を加えると、プリセット番号のボックスは赤色に変わり、「SAVE」(保存)ユーティリティボタンが点灯します(下図参照)。



編集した設定を未保存の状態で、別のプリセットを選択したあと元のプリセットに戻るか、電源オフ→再度オンにすると、プリセットは編集前の設定に戻ります。プリセットに加えた編集を保存するには、点灯している「SAVE」ユーティリティボタンを押し、3つの選択肢を表示します（下図参照）：「SAVE」（保存。編集を保存します）、「RENAME」（名前の変更。編集したプリセットの名前を変更して保存）、そして「SAVE AS NEW」（新規プリセットとして保存。編集を加えたプリセットの設定を、別に新規プリセットとして保存）。エンコーダーを使用して任意の選択肢をハイライト表示し、エンコーダーを押して選択を確定します。



「RENAME」または「SAVE AS NEW」を選択した後、新しいプリセット名を入力するには、エンコーダーを使用して、任意のスペルを入力します。まずエンコーダーを1度押し、カーソルを表示させます；エンコーダーを回し、文字を選択します（下図参照）。エンコーダーをもう一度押すと文字を確定し、次へ移動します。プリセット名をすべて入力し終わるまで同じ手順を繰り返します；「SAVE」ユーティリティボタンを押して新しいプリセット名を保存するか、または一番上のレイヤーボタンを押し（画面の「back」に対応）、前画面に戻ります。「SAVE AS NEW」を選択した場合、プリセットは使用可能なプリセット番号のうち、一番若い番号で保存されます（下図では「101」として保存）。



プリセットアンプリファー コントロールノブ設定の編集

”コントロールパネル”の項に記載されているとおり、ユーザーはプリセットのアンプリファー コントロールノブ設定を、トップパネルのフィジカル コントロールノブで変更できます（マスター音量を除く）。フィジカルコントロールノブの設定が変更されると、デジタルコントロールノブの設定も同期します。

使用中のアンプのコントロール類が表示されるコントロールレイヤーで、デジタルコントロールノブの位置を編集することによっても、設定の変更ができます。まず、レイヤーボタンを押してコントロールレイヤーにアクセスします（下図参照）。



一番下のレイヤーボタンを押して、プリセット内のアンプモデルのコントロールレイヤーにアクセスします。

コントロールレイヤーへ入ったら、エンコーダーを回してスクロールし、任意のデジタルアンプ コントロールノブを選んで押します。エンコーダーをもう1度回し、そのコントロールの設定を変更します。コントロール設定を変更すると、プリセット番号を表示するボックスが青色から赤色に変化し(プリセットが編集されたことを意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。コントロール設定が完了したら、さらにほかの編集を続けるか、「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図参照)。



エンコーダーを回し、アンプモデルのコントロールノブをスクロールします。

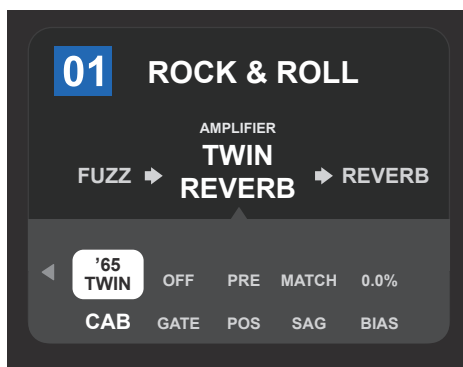


エンコーダーを押し、調節するアンプモデル コントロールノブを選択します。

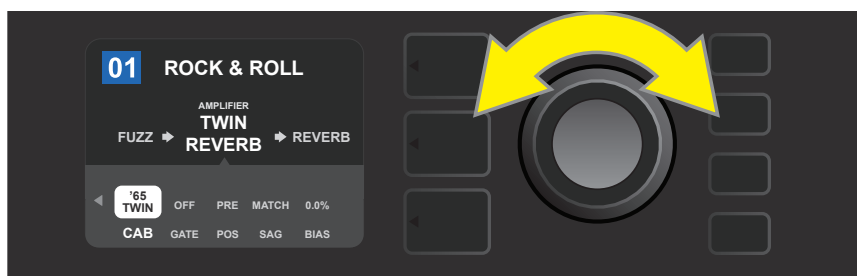


エンコーダーを再度回し、選択したアンプモデル コントロールノブを好みに応じ調節します。

プリセット内の各種アンプモデルのコントロールレイヤーをスクロールすると、アンプおよびコントロールの追加設定があります。サグ、バイアス、ゲートコントロールなどの”よりディープな”パラメーターです。異なるスピーカーキャビネットを選択することもできます。こういった追加パラメーターも、先述のパラメーターと同様に、スクロール、選択、調節および保存します(下図参照)。



コントロールレイヤー内の、アンプおよびコントロールの追加設定の拡大図:図のアンプモデルは Twin Reverb。



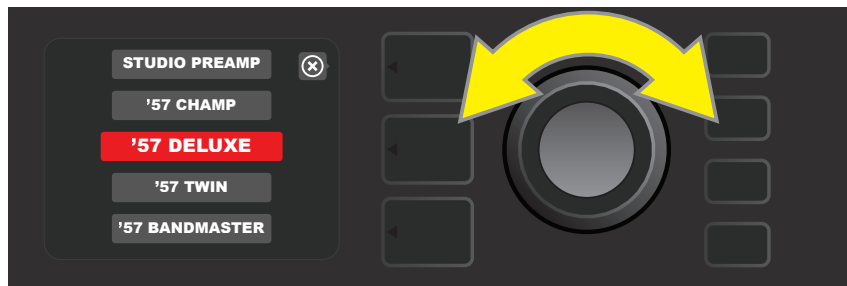
コントロールレイヤーの、アンプおよびコントロールの追加設定も、エンコーダーでスクロール、選択および調節します。

プリセットアンプリファーマodelの置き換え

プリセットのアンプリファーマodelを置き換えるには、まずレイヤーボタンを押し、シグナルパスレイヤーに入ります。プリセットアンプモデルがハイライト表示されます。エンコーダーを押すと、アンプモデルメニューが表示されるので、スクロールします。エンコーダーを再度押すと、新たなアンプモデルが選択されます。すると、プリセット番号を表示しているボックスが青色から赤色に変化し(プリセットが編集されたことを表します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します(下図参照)。アンプを置き換えたら、続けて別のパラメーターを編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して編集を保存します。また、画面に円で囲まれた「×」マークが表示されている時、その横のプリセットレイヤーボタンを押すと、アンプメニューを閉じます。



シグナルパスレイヤーで選択されているアンプモデル(下部に白い矢印、上部に"amplifier"のテキスト表示)を、別のアンプモデルに置き換えるには、まずエンコーダーを押し、アンプモデルのメニューにアクセスします。



エンコーダーを回し、アンプモデルメニューをスクロールします。



エンコーダーを押し、プリセットのアンプを新たに選択します。



アンプを置き換えた後は、ほかのパラメーターの編集を続けるか、または点灯している「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します。

アンプリファーマodelのリスト

次の表はMustang GTの全プリセットアンプモデルのリストで、各モデルについて簡潔に解説しています。Mustang GTアンプモデルは常に見直しおよびアップデートされています; 本マニュアルでは現在使用されているアンプモデルについて記述しています。

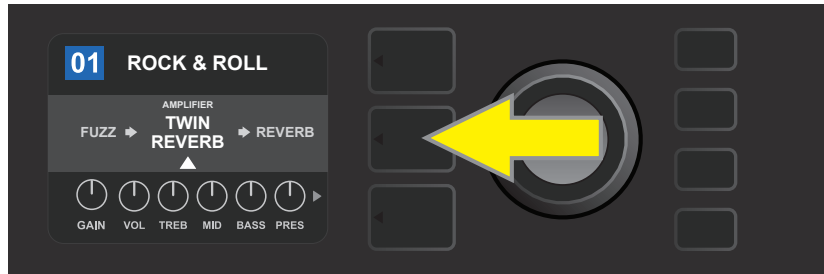
Champ, Deluxe, Bassman, Princeton, Deluxe Reverb およびTwin ReverbはFMICの商標です。本マニュアルに記載されているFMIC以外の製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属し、本製品のサウンドモデル開発時に、その音色を吟味、研究した製品を表すためにのみ使用されます。それらの製品および商標の使用は、FMICと第三者との間の提携、スポンサーシップ、承認を意味するものではありません。

Studio Preamp	直接ミキシング卓へ接続した時の、混じり気のないスタジオ感。クリーンで特定のカラーを付加しないトーンレスポンス
'57 Champ®	小型だが力強く、レコーディングで重用されるFender '50年代後半のアンプモデル
'57 Deluxe™	ミディアムなパワーで、厚みがありコンプレスの効いたオーバードライブで知られる、'50年代後半Fenderのツィードの名機
'57 Twin	クリーンからダーティまで幅広いトーンを賞された、オリジナル期12インチ2基 ツィードの傑作
'57 Bandmaster	パリッとした高域が特徴の、Fenderの3スピーカー ナローパネル ツィードアンプ
'59 Bassman®	ベースアンプとして生まれ、後にギタリストに愛用されるようになった、Fenderの最も偉大なツィードアンプの一つ
'61 Deluxe	ブラウンフェイス時代のFender Deluxe。ツィードとブラックフェイスモデルの中間のようなアンプ
'65 Princeton®	10インチスピーカー1発のきびきびとした音色が特徴。 '60年代中期Fenderのスタジオアンプ
'65 Deluxe Reverb®	クリーン／ダーティいずれも際立った音色を持ち、幾多のクラブで愛用された、高い人気を誇る'60年代中期Fenderのアンプ
'65 Twin Reverb®	その比類ないFenderクリーントーンを賞賛された、かけがえのない'60年代中期のステージ／スタジオアンプ
Excelsior	15インチスピーカー独特のパンチ力を持つ、エレガントさとエキセントリックさを併せ持った現代のFenderモデル
'66 GA-15	リバーブを"フルウェット"にした時の大洞窟のような音響で知られる、1966 Gibson GA-15RVTエクスプローラーにインスパイアされたアンプモデル
'60s Thrift	現代のレトロ／オルタナティブプレイヤーが愛用するガレージの名機、1960年代 Sears Silvertoneにインスパイアされたアンプモデル
British Watts	クリーンなトーンを持つブリティッシュ スタックアンプの傑作、オリジナルの100ワット Hiwatt DR103にインスパイアされたアンプモデル
'60s British	ブリティッシュインペイジョンを牽引した事で知られ、見事なクリーンおよびダーティなトーンを創出する、Vox AC30にインスパイアされたアンプモデル
'70s British	ハードロックの黎明期を後押しした、'60年代後半/'70年代初期の Marshall Super Leadにインスパイアされたアンプモデル
'80s British	'80年代のメタルトーンの真髄を生み出した、Marshall JCM800にインスパイアされたアンプモデル
British Colour	Orange OR120の威厳あふれる分厚さにインスパイアされたアンプモデル
Super-Sonic	連鎖リアンプゲインステージにより際立ったサステインを生み出す、現代Fenderのアンプモデル
'90s American	ニューメタルサウンドを形作る、独特のディストーションが特徴の、Mesa Dual Rectifierをベースにしたアンプモデル
Metal 2000	EVH® 5150IIIをベースにした、灼熱のハイゲイントーン

エフェクトの編集

プリセットには、アンプモデルに加え、エフェクトが多彩な組み合わせで設定されています。エフェクトは、**バイパス、変更、移動、追加**または**削除**などの編集ができます。さらに、エフェクトごとに、個別の設定を編集可能です。各編集項目については、本ページの以下～数ページにわたって解説します。

エフェクトタイプおよび信号パス内での位置は、シグナルパスレイヤーで編集します。編集を開始するには、まずシグナルパス レイヤーボタンを押します。するとまず自動的に使用中のアンプリファーマodelがハイライトされます。エフェクトをハイライトするには、任意の方向にエンコーダーを回します(下図参照)。エフェクトがハイライトされると、白い矢印が下に、ラベルが上に表示されます。



エフェクトにアクセスするには、まず中央のレイヤーボタンを押して、シグナルパスレイヤーに入ります。



エンコーダーを任意の方向に回し、エフェクトをハイライトします
(ハイライトされると、白い矢印が下に、上にラベルが表示されます)。

プリセットでは、配置ホルダーが円で囲まれた「+」で表され、シグナルパスレイヤーの左右の端に表示されます(下図参照)。このマークは空きスロットを意味し、ここにエフェクトを移動または追加できます(14ページ「エフェクトの追加」を参照)。多くのプリセットでは1つ以上のエフェクトが使用されているため、このシンボルを表示するには、エンコーダーで右端から左端までスクロールする必要があります。



拡大図—エフェクトを含まないプリセット—エフェクトを追加できる空きスロットは、「+」を円で囲った配置ホルダーのマークで表され、シグナルパスレイヤーの左右の端に表示されます。

エフェクトのバイパス

エフェクトの**バイパス**方法は2通りあります。第一は一般的なオン／オフ機能で、単純にボタンを押し、全プリセットの全エフェクトをオン／オフする方法です。第二は、プリセット内の特定のエフェクトを個々にバイパスする方法です。

Mustang GTの各プリセットの全エフェクトをオフ(そして再度オン)にするには、「X FX」ユーティリティボタンを押します。保存のオプションはありません; これは手っ取り早く全エフェクトをオン／オフする方法です。「X FX」ユーティリティボタンを押すと点灯し、青色の「BYPASS」(バイパス)ラベルが、各エフェクトの上に表示されます(下図参照)。プリセット内で、すでに特定のエフェクトを個別にバイパスしている場合、「X FX」ユーティリティボタンの使用でエフェクトがオンになることはありません。



「X FX」ユーティリティボタンを押すと点灯し、全プリセットの全エフェクトをバイパスします(各エフェクトの上に、青色で「BYPASS」ラベルが表示されます)。

プリセット内の特定のエフェクトを個別にバイパスするには、まずシグナルパスレイヤーでハイライトし、エンコーダーを押します。表示されたエフェクト配置メニューから「BYPASS」(バイパス)を選択し、エンコーダーを再度押します。シグナルパスレイヤーに、エフェクトがバイパスされていることが表示されます; プリセット番号の表示ボックスが青色から赤色に変わり(プリセットが編集されたことを意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトをバイパスしたら、さらに別の編集作業を続けるか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図参照)。



ハイライトしたエフェクトをバイパスするには、まずエンコーダーを押し、エフェクト配置 オプション メニューにアクセスします。



エフェクト配置 オプションメニューで、エンコーダーを回して「BYPASS」をハイライトし、エンコーダーを押して選択します。



エフェクトがバイパスできたら(下に白い矢印、上に青い「BYPASS」ラベルが表示されます)、続けてほかのパラメーターを編集するか、点灯している「SAVE」ユーティリティボタンを押し、編集を保存します。

エフェクトの置き換え

エフェクトを**置き換える**には、シグナルパスレイヤーで、置き換えるエフェクトをハイライトし、エンコーダーを押します。エフェクト配置オプションのメニューから「REPLACE」(置換)を選択し、エンコーダーを再度押します。表示される4種類のカテゴリーのうち、1つを選びます(Stomp Box、Modulation、Delay、Reverb -ストンプボックス、モジュレーション、ディレイ、リバーブ)。エンコーダーを押し、カテゴリー内のエフェクトにアクセスします。エフェクトをスクロールし、置き換えるエフェクトを1つ選んで、エンコーダーを押します。

シグナルパスレイヤーには新たに選択したエフェクトが表示され、エフェクトが置き換わったことが確認できます; プリセット番号の表示ボックスは、青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトの置き換えが済んだら、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。画面に円で囲んだ「X」印が表示されている時、その横のプリセットレイヤーボタンを押すと、エフェクトプレイスメント オプションおよびエフェクトカテゴリーメニューを閉じます;「back」ラベルが表示されている時は、押すと前画面に戻ります(エフェクトメニュー同様)。



ハイライトしたエフェクトを置き換えるには、まずエンコーダーを押して、エフェクトプレイスメント オプションのメニューにアクセスします。



エンコーダーを回し、エフェクトプレイスメント オプションメニューで「REPLACE」をハイライトして、エンコーダーを押して選択します。



エンコーダーを回し、4つのカテゴリーのうち1つをハイライトします。エンコーダーを押して、任意のカテゴリーを選択します。



エンコーダーを回して置き換えるエフェクトをハイライトします。エンコーダーを押して選択します。



エフェクトの置き換えが済んだら(図内では白い矢印が下に、ラベルが上に表示されています)、続けてほかのパラメーターを編集するか、または点灯している「SAVE」ユーティリティボタンを押し、編集を保存します。

エフェクトの移動

エフェクトを信号パスの別の位置に**移動する**には、まずシグナルパスレイヤーで移動したいエフェクトをハイライトし、エンコーダーを押します。エフェクト配置オプションで「MOVE」(移動)を選択し、再度エンコーダーを押します。選択したエフェクト名の周囲にオレンジ色のボックスと、点滅する白い矢印が表示され、移動が可能な状態になります。エンコーダーを回し、選択したエフェクトを任意の位置に配置します; エンコーダーを押し、新規位置への配置を確定します。

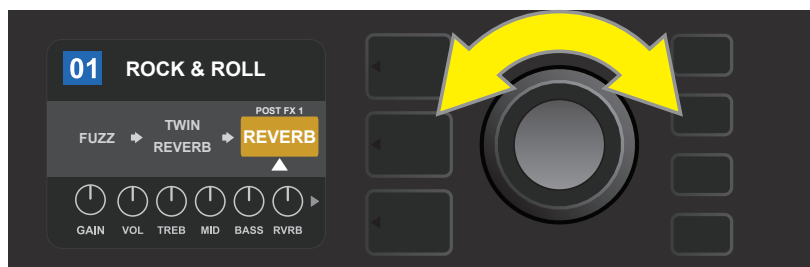
するとシグナルパスレイヤーの新規位置にエフェクトが表示されます; プリセット番号の表示ボックスは、青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクト移動後、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。



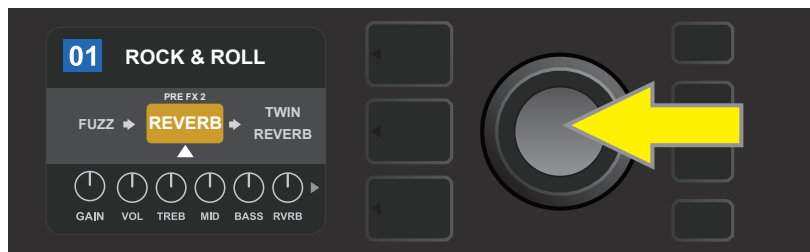
ハイライトしたエフェクトを移動するには、まずエンコーダーを押し、エフェクト配置オプションメニューにアクセスします。



エフェクト配置オプションメニューで、エンコーダーを回して「MOVE」をハイライトします。エンコーダーを押し、選択します。



オレンジ色のボックスに選択エフェクトが表示され、ハイライト状態を示す白い矢印(下)、ラベル(上)が現れます。エンコーダーを回して信号パス内の新規位置へ移動できます。



選択したエフェクトをエンコーダーを回して移動し、エンコーダーを押して、信号パスでの新規位置を選択します。



エフェクトを新規位置へ移動したら(白い矢印が下側に、ラベルが上に表示されています)、続けてほかのパラメーターを編集するか、点灯している「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します。

エフェクトの追加

エフェクトの**追加**には、2通りの方法があります。

第一の方法は、まずエンコーダーを回して、シグナルパスレイヤー内に2つある「+」印(配置ホルダーを表す)のうち1つをハイライトします。すると「+」印を囲む円が緑色に変わります。エンコーダーを押して、Stomp Box(ストンプボックス)、Modulation(モジュレーション)、Delay(ディレイ)、Reverb(リバーブ)の、4種類のエフェクトカテゴリーを表示します。エンコーダーを回して任意のカテゴリーをハイライトし、エンコーダーを押して、カテゴリー内のエフェクトを表示します。エフェクトをスクロールし、エンコーダーを押して任意のエフェクトを選択します。

シグナルパスレイヤーで、追加したエフェクトが緑色のボックス内に、下に点滅する白い矢印、上にラベルを伴い表示されます。この状態では別の場所への移動が可能なので、必要に応じてエンコーダーを回して移動し、任意の場所でエンコーダーを押して確定します。

エフェクトを追加すると、プリセット番号の表示ボックスは、青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトの追加後、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。画面に「X」マークが表示されている時、その横のプリセットレイヤーボタンを押すと、エフェクトカテゴリーおよびエフェクトメニューを閉じます; 「back」が表示されている時に押すと、前画面に戻ります。



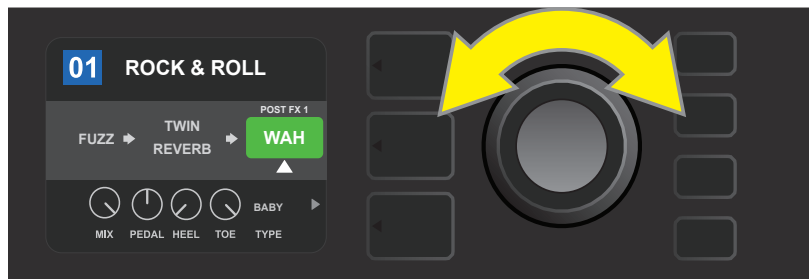
エフェクトを追加するには、エンコーダーを回し、「+」印をハイライトします。「+」印を囲む円が緑色になります。エンコーダーを押して、4つのエフェクトカテゴリーメニューを表示します。



エンコーダーを回してスクロールし、押してエフェクトカテゴリーを選択します。



エンコーダーを回してスクロールし、押してエフェクトを選択します。



新規追加したエフェクトが、下に白い矢印、上にラベルを伴った緑色のボックスに表示されます。そのままの位置に決定するか、エンコーダーを回して信号パスの別の位置に移動します。



エンコーダーで新規追加したエフェクトを移動したら、エンコーダーを押して、信号パスでの配置を確定します。



エフェクトの追加が済んだら(図内で、下に白い矢印、上にラベルを伴って表示)、続けて別のパラメーターを編集するか、または点灯中の「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します。

エフェクトを追加する2番目の方法は、まずシグナルパスレイヤーで既存のエフェクトをハイライトして、エンコーダーを押します。エフェクト配置オプションメニューから「ADD FX」(エフェクトの追加)を選択し、エンコーダーを再度押します。表示された 4つのエフェクトカテゴリーから任意のカテゴリーを選択し、エンコーダーを押して、カテゴリー内のエフェクトを表示します。エンコーダーを回してエフェクトをスクロールし、押して任意のエフェクトを選択します。

シグナルパスレイヤーに、新規追加したエフェクトが緑色のボックスに、下に点滅する矢印、上にラベルを伴って表示されます。必要に応じて、エンコーダーを回してエフェクトを別の位置に移動し、任意の位置でエンコーダーを押して確定します。

エフェクトを追加すると、プリセット番号の表示ボックスは、青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトの追加後、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。



もう1つのエフェクト追加方法は、まずエンコーダーを回してプリセット内の既存のエフェクトをハイライトし、エンコーダーを押して4つのエフェクトカテゴリーを表示します。



エフェクトプレイスメント オプションメニューでエンコーダーを回して「ADD FX」を選び、押します。



エンコーダーをスクロールし、押して、任意のエフェクトカテゴリーを選択します。



エンコーダーをスクロールし、押して任意のエフェクトを選択します。



新規追加したエフェクトは、緑色のボックス内に、下に白い矢印、上にラベルを伴って表示されます。
現在の場所にセットするか、エンコーダーを回して信号パス内の別の場所に移動します。



エンコーダーを回して新規追加エフェクトを任意の位置に移動したら、
エンコーダーを押して、信号パス内での配置を確定します。



追加エフェクトの配置が済んだら(図内で、下に白い矢印、上にラベルを伴って表示)、続けて別のパラメーターを編集するか、
または点灯中の「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します。

エフェクトの削除

エフェクトを信号パスから**削除**するには、シグナルパスレイヤーで削除したいエフェクトをハイライトし、エンコーダーを押します。エフェクト配置オプションメニューで「DELETE」(削除)を選択し、エンコーダーを再度押します; エフェクトは信号パスから削除され、空いたスロットに、使用中の別のエフェクトが(ある場合は)シフトします。削除したエフェクトが信号パス内での唯一のエフェクトだった場合(プリまたはポスト)は、「+」を円で囲った、配置ホルダーのマークがその場所に表示されます。

エフェクトが削除されると、プリセット番号の表示ボックスは青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトの削除後、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。



ハイライトしたエフェクトを削除するには、まずエンコーダーを押してエフェクト配置オプションにアクセスします。



エフェクト配置オプションで、エンコーダーをスクロールし、「DELETE」をハイライトして押します。

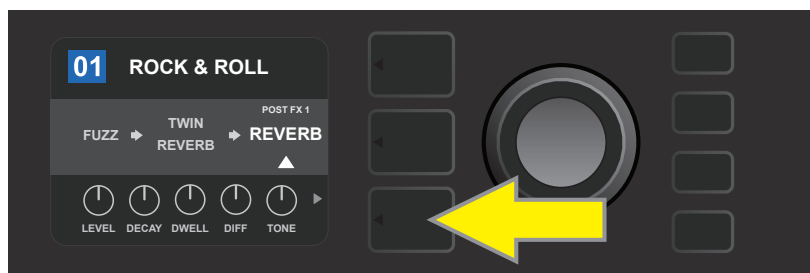


シグナルパスレイヤーで、エフェクトが削除されたことが表示されます(白い矢印が表示されます)、配置ホルダーを表す「+」印(図)に置き換わるか、別のエフェクト(使用している場合)が、削除したエフェクトのスロットにシフトします。

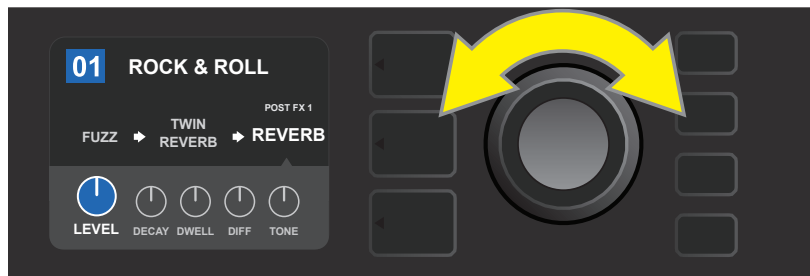
エフェクト設定の編集

特定のエフェクトのコントロール設定を編集するには、まずシグナルパスレイヤーでエンコーダーを回して、そのエフェクトをハイライトします。コントロールレイヤーボタンを押して、エフェクトのコントロール項目を表示します。エンコーダーを回し、利用可能なエフェクトコントロールをスクロールすると、ハイライトされた項目は青色になります。エンコーダーを押し任意のエフェクトコントロールを選択すると、赤色に変わります。

特定のエフェクトコントロールを選択したら、エンコーダーを回して随意に編集します。編集を確定するにはエンコーダーを再度押します。すると編集したエフェクトコントロールが、赤色から青色に戻ります。エフェクトコントロールを編集すると、プリセット番号の表示ボックスは青色から赤色に変わり(プリセットが編集された事を意味します)、「SAVE」ユーティリティボタンが点灯します。エフェクトの編集後、続けて別の項目を編集するか、または「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します(下図および次ページの図を参照)。



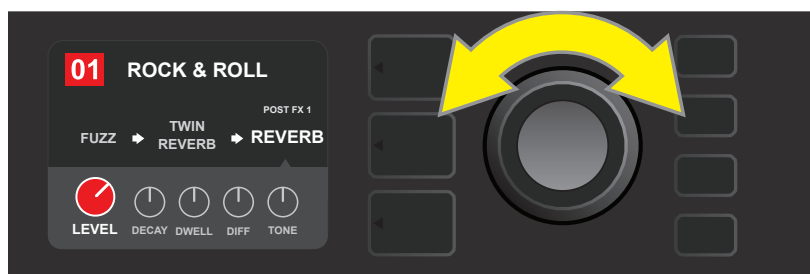
特定のエフェクトの設定を編集するには、シグナルパスレイヤーでエンコーダーを回して、任意のエフェクトをハイライトし、コントロールレイヤーボタンを押します。



コントロールレイヤーでエンコーダーを回して、任意のエフェクトコントロールをハイライトします；
各エフェクトコントロールは、ハイライトされると青色になります。



調節したいエフェクトコントロールをハイライトし、エンコーダーを押して選択すると、赤色に変わります。



エンコーダーを回し、好みの設定になるようエフェクトコントロールを編集します。



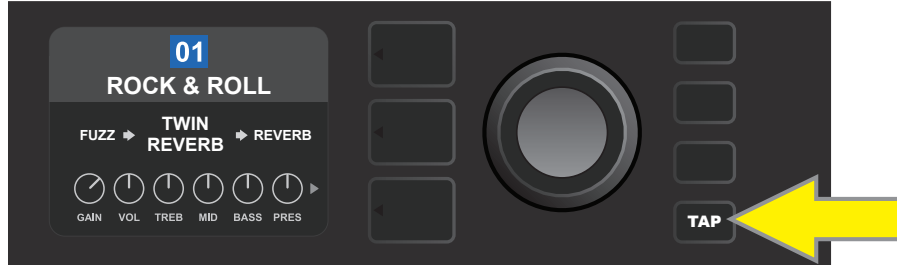
エンコーダーを押し、エフェクトコントロール設定に加えた編集を確定します。エフェクトコントロールが青色に戻ります。



特定のエフェクトコントロールを好みに合わせて編集したら、続けて別のパラメーターを編集するか、
または点灯中の「SAVE」ユーティリティボタンを押して、編集を保存します。

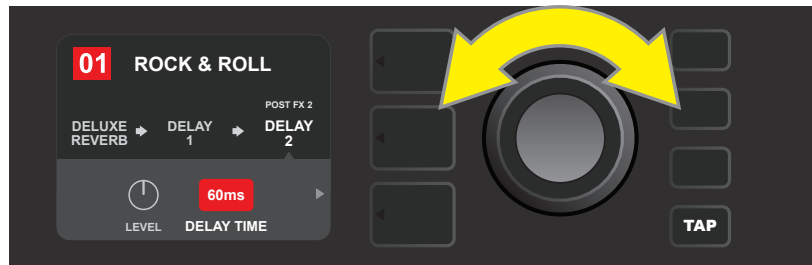
タップテンポ ボタンの使用

モジュレーションや**ディレイ**、もしくはその両方*のエフェクトを含むプリセットでは、「TAP」(タップ)ユーティリティボタンが、信号パスの**最初のディレイエフェクト**の初期設定のレートに合わせて、点滅します(プリセット内にディレイエフェクトがない場合は、**最初のモジュレーションエフェクト**)。レート設定はそのままでも使用できますが、「TAP」ユーティリティボタンを使って変更することもできます。タップテンポを新規に設定するには、点滅している「TAP」ユーティリティボタンを、好みのテンポに合わせて、2回以上タップします(下図参照)。「TAP」ユーティリティボタンは、ハイライトされているレイヤーに関わらず機能します(プリセットレイヤー、シグナルパスレイヤー、コントロールレイヤー)。



最初のディレイエフェクト(ディレイエフェクトが無い場合はモジュレーションエフェクト)のテンポを変更するには、「TAP」ユーティリティボタンを任意のテンポに合わせてタップします。

信号パス内の**すべてのディレイ**および**モジュレーションエフェクト**のタイムパラメーターは、「TAP」ユーティリティボタンを使用せずに、コントロールレイヤーで調節することも可能です。まずシグナルパスレイヤーで、エンコーダーを使い、編集するディレイもしくはモジュレーションエフェクトをハイライトします; コントロールレイヤーにコントロール類が表示されます。レイヤーボタンを押してコントロールレイヤーに入り、編集したいパラメーターをエンコーダーでスクロールします。エンコーダーを押して選択し、任意のタイム値を調節すると、タイム値を表示しているウィンドウが赤色に変わります; エンコーダーを押して、新規タイム値を確定します(下図参照)。



ディレイおよびモジュレーションエフェクトのテンポは、コントロールレイヤーでタイムパラメーターの数値をハイライトし、エンコーダーを好みのテンポになるよう押す/回すことによっても変更できます。

* Mustang GT のモジュレーションおよびディレイエフェクトのリストは、22ページおよび23ページに記載されています。

エフェクトタイプのリスト

Mustang GTの内蔵エフェクトは、4つのカテゴリーメニューに分類されています: **ストンプボックス** (Stompbox) エフェクト12種、**モジュレーション** (Modulation) エフェクト13種、**ディレイ** (Delay) エフェクト9種、そして**リバーブ** (Reverb) エフェクト12種です。下に、カテゴリーごとに名称および解説を記載します。Mustang GT エフェクトは常に見直しおよびアップデートをおこなっています; 本マニュアルでは、現状使用されているエフェクトタイプを記載しています。

本マニュアルに記載されているFMIC以外の製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属し、本製品のサウンドモデル開発時に、その音色を吟味、研究した製品を表すためにのみ使用されます。それらの製品および商標の使用は、FMICと第三者との間の提携、スポンサーシップ、承認を意味するものではありません。

ストンプボックス エフェクト

Ranger Boost (レンジャーブースト)	'60年代のDallas Rangemaster Treble Boosterにインスパイアされた、ディストーション エフェクト
Overdrive (オーバードライブ)	Mustang GT用に特別設計された、Fenderの万能オーバードライブ
Greenbox (グリーンボックス)	'70年代後半の、オリジナルのIbanez TS808 Tube Screamerにインスパイアされた、オーバードライブエフェクト
Blackbox (ブラックボックス)	Pro Co RATにインスパイアされたディストーションエフェクト
Yellowbox (イエローボックス)	'70年代の MXR Distortion Plusにインスパイアされた、ディストーションエフェクト
Orangebox (オレンジボックス)	'70年代後半のオリジナルBoss DS-1にインスパイアされた、ディストーションエフェクト
Fuzz (ファズ)	Mustang GT用に特別設計された、Fenderのオクターブ付き万能ファズ
Big Fuzz (ビッグファズ)	Electro-Harmonix Big Muffにインスパイアされた、ディストーションエフェクト。
Simple Comp (シンプルコンプ)	傑作MXR Dyna Compにインスパイアされた、コンプレッサーエフェクト
Compressor (コンプレッサー)	基本は上のシンプルコンプレッサーと同様で、ゲイン、スレッシュホールド、アタックおよびリリースコントロールを追加
Pedal Wah (ペダルワウ)	Dunlop Cry Baby および'60年代のVox Clyde McCoyワウペダルにインスパイアされた、デュアルワウペダル
Touch Wah (タッチワウ)	基本は上記のペダルワウと同様で、エクスプレッションペダルでなく、ピッキングの強弱でコントロールします

モジュレーションエフェクト

Mustang GTのモジュレーションエフェクトでは、TAPユーティリティボタンが使用できます。
1つ以上のモジュレーションエフェクトを使用しているプリセットを選択すると、TAPユーティリティボタンが点滅します。

本マニュアルに記載されているFMIC以外の製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属し、本製品のサウンドモデル開発時に、その音色を吟味、研究した製品を表すためにのみ使用されます。それらの製品および商標の使用は、FMICと第三者との間の提携、スポンサーシップ、承認を意味するものではありません。

Sine Chorus (サイン波コーラス)	モジュレーションにサイン波を使用した、なめらかで丸みのあるコーラスエフェクト
Triangle Chorus (三角波コーラス)	モジュレーションに三角波を使用した、はっきりとしたコーラスエフェクト
Sine Flanger (サイン波フランジャー)	モジュレーションにサイン波を使用した、なめらかにフランジングするエフェクト
Triangle Flanger (三角波フランジャー)	モジュレーションに三角波を使用した、はっきりとしたフランジングエフェクト
Vibratone (ビブラトーン)	回転スピーカーの揺らぎ。'60年代後半/'70年代前半の傑作 Fenderエフェクト
Vintage Tremolo (ビンテージトレモロ)	Twin ReverbなどのFenderアンプで耳にする、Fenderの名高い、揺らめくフォトレジスタートレモロ
Sine Tremolo (サイン波トレモロ)	Fender Princeton Reverbなどで耳にする、緩やかに脈打つ真空管バイアストレモロ
Ring Modulator (リングモジュレーター)	電子音楽黎明期の、創造性あふれる非和声音と不協和音。
Step Filter (ステップフィルター)	音をダイスし、明快な「ステップ」にして交互反復する、リズムカルで断続的なモジュレーションエフェクト。
Phaser (フェイザー)	「シューツ」というジェット音で、数多くの録音で長年使われてきた、必須エフェクト
Phaser 90 (フェイザー90)	'70年代の傑作 MXR Phase 90にインスパイアされた、位相シフトエフェクト
Pitch Shifter (ピッチシフター)	ドライ信号のピッチの上または下に、別の音を加える、シンプルなピッチシフター
Diatonic Pitch (ダイアトニックピッチ)	ダイアトニックキーに基づき、音階に適した和声を創り出すピッチシフター

ディレイエフェクト

Mustang GTのディレイエフェクトではTAPユーティリティボタンが使用できます。ディレイエフェクトを1つ以上使用しているプリセットを選択すると、TAPユーティリティボタンが点滅します。

本マニュアルに記載されているFMIC以外の製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属し、本製品のサウンドモデル開発時に、その音色を吟味、研究した製品を表すためにのみ使用されます。それらの製品および商標の使用は、FMICと第三者との間の提携、スポンサーシップ、承認を意味するものではありません。

Mono Delay (モノラルディレイ)	クリーン、シンプルで素朴な信号の反復
Mono Echo Filter (モノラルエコーフィルター)	反復信号に、ワウに似たエフェクトが均等間隔でかかるモノラルエコー
Stereo Echo Filter (ステレオエコーフィルター)	反復信号に、ワウに似たエフェクトが均等間隔でかかるステレオエコー
Tape Delay (テープディレイ)	テープの不完全性により独特のワウアンドフラッターを生み出す、アナログの傑作Maestro Echoplexがベースのディレイ
Stereo Tape Delay (ステレオテープディレイ)	上記と同様のテープディレイを、ステレオにしたエフェクト
Multi Tap Delay (マルチタップディレイ)	複数の細分化された”タップ”を、異なったタイムインターバルに設定する、リズミックなディレイ
Reverse Delay (リバースディレイ)	有名な”逆回転ギター”エフェクトのように、音のシェイプを逆転します。
Ping Pong Delay (ピンポンディレイ)	ステレオ音場で左右を往復しながらリピートし、ピンポンのような印象を与えるエフェクト
Ducking Delay (ダッキングディレイ)	演奏中はエフェクトはかからず、演奏を止めると(一定以下の音量になると)、隙間を埋めるようにエフェクトがかかります

リバーブエフェクト

Small Hall (スモールホール)	ホールサイズの映画館で耳にするような、明るいリバーブ
Large Hall (ラージホール)	メジャーな演奏ホールや、広々とした大型のスペースをシミュレートした、強く、明るいリバーブ
Small Room (スモールルーム)	小さなスペースや、クラシックのエコー室のような、温かみがあり、エコーが控えめなリバーブ
Large Room (ラージルーム)	ナイトクラブなど、ホールではない大きめの部屋のような、暖かなサウンドのリバーブ

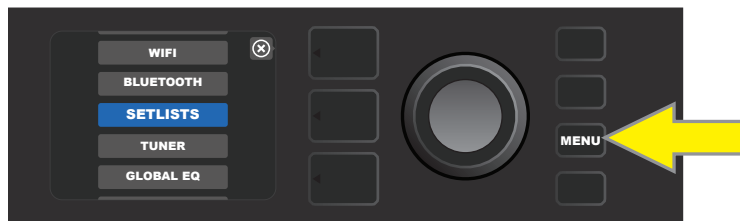
リバーブエフェクト（続き）

本マニュアルに記載されているFMIC以外の製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属し、本製品のサウンドモデル開発時に、その音色を吟味、研究した製品を表すためにのみ使用されます。それらの製品および商標の使用は、FMICと第三者との間の提携、スポンサーシップ、承認を意味するものではありません。

Small Plate (スモールプレート)	ルームリバーブやホールリバーブに比べ、密度とフラットさが特徴の、反響性の高いメタリックリバーブ
Large Plate (ラージプレート)	数多くの録音で聴くことができるタイプのリバーブで、ビリヤード台サイズの名機、EMT 140がベース
'63 Spring ('63スプリング)	'60年代初期の傑作、スタンドアローンの Fender リバーブエフェクト
'65 Spring ('65スプリング)	'60年代中期のクラシックなFenderアンプに搭載されていた、Fenderリバーブエフェクト
Arena (アリーナ)	大型のスタジアムやアリーナの音響を模した、長く尾をひくリバーブ
Ambient (アンビエント)	非常に小さなスペースの（上記スモールルームよりも小さい）、かすかなリバーブ
Shimmer (シマー)	リバーブと2オクターブのピッチシフトを組み合わせた、キラキラとした効果
GA-15 Reverb (GA-15リバーブ)	'60年代の Gibson GA-15 アンプリバーブをベースにしたエフェクト。フルウェット（ドライ信号無し）効果が特徴的

メニュー機能

エンコーダーの右側に、4つのユーティリティボタンが縦に並んでいます。上から3番目の「MENU」ユーティリティボタンを使って、Mustang GTの各種特別機能にアクセスできます（[下図参照](#)）。これらの機能については本マニュアルの別の項でご参照いただけますが、次にリストアップし、簡潔にご紹介します。



「MENU」ユーティリティボタンを押した後、エンコーダーを回して10種類あるMustang GTのメニュー機能から1つを選択します。10種類の機能の内訳は以下の通りです：

SETLISTS (セットリスト): ユーザーのセレクトした複数のプリセットから成る、セットリストの作成および使用（[26-28ページ参照](#)）。

WIFI: WiFiのオン／オフ、ネットワークの選択および接続、パスワードの追加（[28-30ページ参照](#)）。

BLUETOOTH: Mustang GTのBluetooth機能へのアクセスと使用（[31ページ参照](#)）。

TUNER (チューナー): Mustang GTの内蔵クロマチックチューナーの有効化（[32ページ参照](#)）。

QUICK ACCESS (クイックアクセス): クイックアクセス（“QA”）モードでMGT-4フットスイッチを使用し、3つのプリセットを選択できるようにします（[35-36ページ](#)）。

EXP-1 SETUP (EXP-1 セットアップ): EXP-1 エクスプレッションペダルの、グローバルおよび特定のプリセットの設定をします（[41-44ページ](#)）。

AMP SETTINGS (アンプ設定): ファクトリープリセットおよびアンプ設定の復元をします（[45ページ](#)）。

GLOBAL EQ (グローバルEQ): 各種イコライゼーションカーブにアクセスします。音響環境に応じて、全体的なアンプレスポンスを調整します（[46ページ参照](#)）。

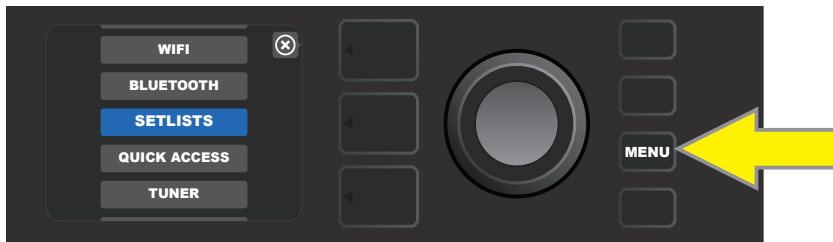
CLOUD PRESETS (クラウドプリセット): クラウドプリセットのストレージおよび使用（[47-48ページ参照](#)）。

ABOUT THIS AMP (このアンプについて): アンプの現在のファームウェアバージョンを表示します（[48ページ参照](#)）。

セットリスト

用途に合わせ、プリセットを「Setlists」(セットリスト)としてグループにまとめて、便利にご利用いただけます。セットリストとは、ライブやリハーサル、好きなプリセットのリスト、ジャンル、アーティストリスト等、状況や目的に応じてユーザー自身でプリセットをセレクトし、作成するグループです。セットリストは作成も編集も容易で、Mustang GTをユーザーの個性やニーズに合わせて効率化し、複数のプリセットへの、すばやく手軽なアクセスを可能にします。

セットリストを作成するには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーでスクロールして「SETLISTS」を選択します：



緑色の「+」印のボックスが表示されます；エンコーダーを押して、新規セットリストの作成を開始します：



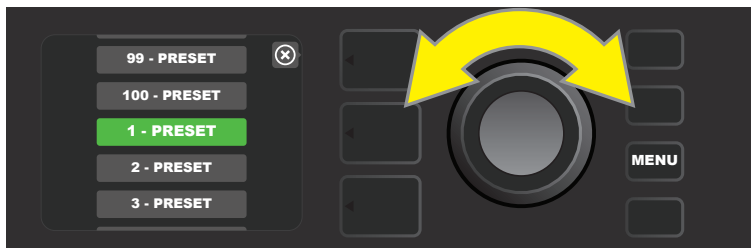
「SETLIST 1」と書かれた青色のボックスが表示されます；エンコーダーを「SETLIST 1」の上で押し、プリセットを加えていきます：



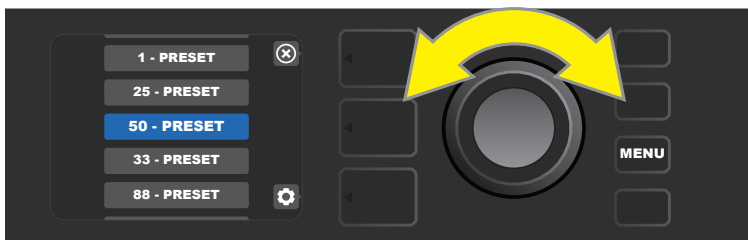
緑色の「+」印のボックスが再度現れます；エンコーダーを押し、プリセットのリストを閲覧します：



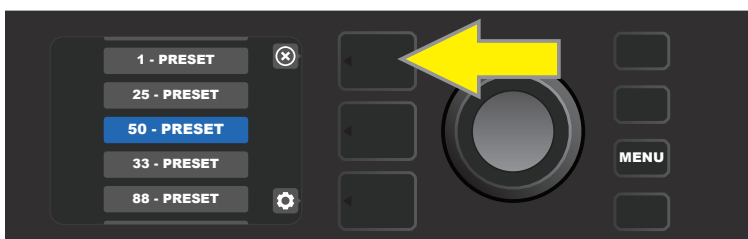
エンコーダーでプリセットをスクロールし、セットリスト1に追加するプリセットを選び、エンコーダーを押して確定します：



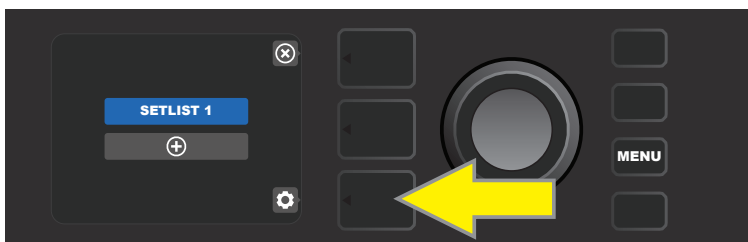
選択したプリセットが、セットリスト1に追加されました; さらにプリセットを追加する場合は、前の2つの手順を繰り返します。セットリスト1に複数のプリセットを追加したら、エンコーダーを使い、選択したセットリスト内の別のプリセットをスクロールおよび有効化します:



セットリストの作成および使用が終了したら、一番上のレイヤーボタンを押して、メインプリセットモードに戻ります。プリセットレイヤーには、セットリストで最後にハイライトしたプリセットが表示される事をご留意ください:



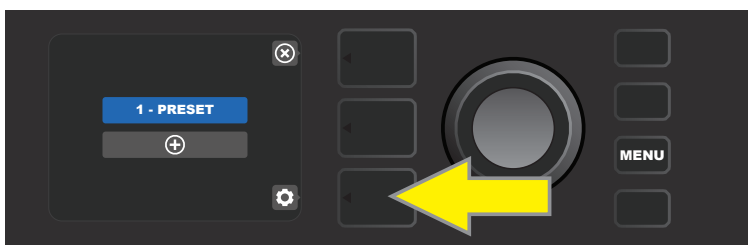
セットリストからすべてのプリセットを消去するには、エンコーダーでスクロールして消去したいセットリストをハイライトし、ギアアイコン表示の横の、コントロールレイヤーボタンを押します:



青色のボックスに「CLEAR SETLIST」(セットリストの消去) と表示されます; エンコーダーを押して、セットリスト内の全プリセットを消去します。セットリストの消去をしない場合は、画面に「back」と表示されている横の、一番上のレイヤーボタンを押します:



セットリスト内のプリセット1つを削除するには、エンコーダーを回してスクロールし、削除したいプリセットをハイライトします; 画面ギアアイコンの横の、コントロールレイヤーボタンを押します:



青色のボックス内に「DELETE」と表示されます; エンコーダーを押すと、プリセットが削除されます。プリセットをセットリストから削除しない場合は、画面の「back」(戻る)の横のプリセットレイヤーボタンを押します:



さらに続けてセットリストを作成する場合は、26ページから27ページの手順を繰り返します。セットリストは自動的に「SETLIST 2」「SETLIST 3」...と番号順に命名されます。

WiFi の使用

Mustang GTの WiFi接続により、ワイヤレスネットワークへの容易なアクセス、Mustang GTの最新ファームウェアアップデートができます (49ページ参照)。設定を開始するには、「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーで「WIFI」までスクロールし、エンコーダーを押してWIFI設定を表示します。

WiFiは初期設定ではオフで、赤色のボックスに「WIFI OFF」と表示されています。エンコーダーを再度押すと、WiFiがオンになり、緑色のボックスに「WIFI ON」と表示されます。WiFiがオンの時、エンコーダーで、使用可能なネットワークをスクロールします; エンコーダーを押して、任意のネットワークを選択します。既知のネットワークが表示されない場合、ネットワークリストの最後尾にある「ADD HIDDEN NETWORK」(ネットワーク追加)を選択し、エンコーダーで文字を手動で入力します (6ページ参照)。ネットワークを選択したら、エンコーダーを押し、表示されたメニューから「CONNECT」(接続)を選択します (このメニューのほかの選択肢の詳細は、30ページに記載)。

「CONNECT」を選択すると、パスワードの入力を要求されます。パスワードを入力するには、エンコーダーを1度押し、カーソルを有効にして、エンコーダーを回して文字を選びます。エンコーダーを再度押すと文字を確定し、次へ移動します; パスワードを全部入力し終わるまでこの手順を繰り返します。パスワードを入力したら、一番上のレイヤーボタンを押します (画面の「done」に対応)。成功したネットワーク接続は、ネットワーク名の左側に緑色のドットが表示されます。以上の全手順はページ下部および次ページに図解されています。

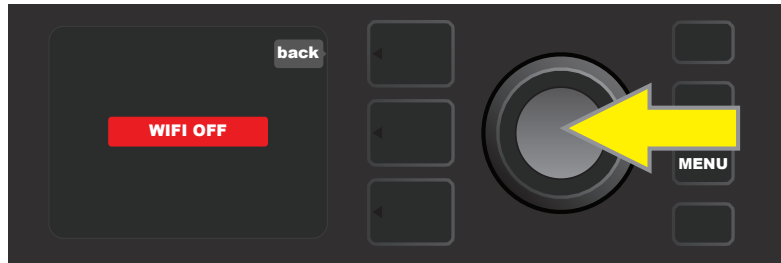
プリセットレイヤーボタンおよびコントロールレイヤーボタンを押すことで、いくつかのメニューの終了(「×」マーク)や、前の手順への復帰(「back」)ができます。



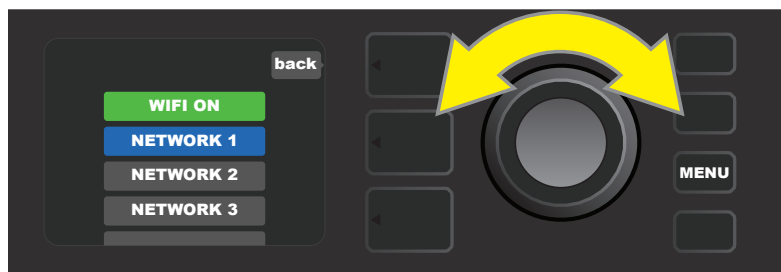
WiFiを有効にするには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押します。



エンコーダーを使用して「WiFi」までスクロールし、エンコーダーを押して WiFi設定にアクセスします。



WiFiは初期設定ではオフ(赤いボックスに表示)です; エンコーダーを押すとWiFiオンになります(緑色のボックスに表示)。



WiFiがオン (緑色のボックスに表示)の時に、エンコーダーで使用可能なネットワークをスクロールします; エンコーダーを押して、ネットワークを選択します。



ネットワークは、スクロールして「ADD HIDDEN NETWORK」を選択し、エンコーダーを回して／押して文字を入力し、手動でアクセスすることもできます。



ネットワークを選択したら、エンコーダーを押して、表示されたメニューから「CONNECT」(接続)を選択します (そのほかの選択肢については、30ページで解説しています)。



「CONNECT」を選択したら、エンコーダーを回して／押して文字を選び、パスワードを入力します。

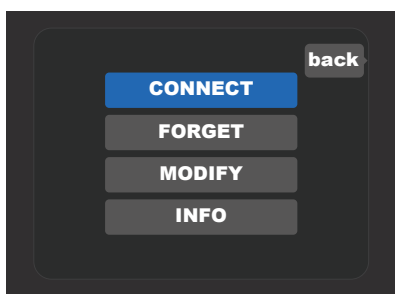


パスワードの入力が完了したら、プリセットレイヤーボタンを押します（画面「done」に対応）。



接続の成功したネットワークの左側に、緑色のドットが表示されます。

Mustang GTのWiFi設定がオンの時のネットワークメニューには、「CONNECT」以外に、「FORGET」「MODIFY」および「INFO」の選択肢があります（下図参照）。エンコーダーでスクロールし、選択します。以下に、各項目を解説します。



WiFiネットワークのほかの選択肢（「FORGET」「MODIFY」「INFO」）を表示したディスプレイウィンドウの拡大図。

FORGET（フォーゲット）: ネットワークを切断し、アンプメモリから削除します。「FORGET」で削除したネットワークの接続を再び確立するには、「ADD HIDDEN NETWORK」の手順（29ページ）をおこなってください。

MODIFY（モディファイ）: 画面に表示されている、現在のネットワークの、「SSID」「PROTOCOL」「PASSWORD」パラメーターを編集します。エンコーダーでスクロールし、任意のパラメーターを選択して、エンコーダーを回したり押したりし、個々の文字を入力して編集を完了します。

INFO（インフォ）: 現在のネットワーク名（SSID）、信号の説明、プロトコル、接続状況を表示します。この情報はユーザーによる編集はできません。

BLUETOOTHの使用

Mustang GTアンプリファァーは、Bluetooth接続機能を搭載しており、ストリーミングオーディオ機器およびFender Tone™ アプリケーションとのペアリングが簡単にできます。お使いのオーディオ機器の、好きな音楽ストリーミングアプリケーションを使って、Mustang GTでのオーディオストリーミングができます。

Bluetoothを有効にするには、「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーを回して「BLUETOOTH」までスクロールし、押してBluetooth設定を表示します。Bluetoothの初期設定はオフで、赤色のボックスに「BLUETOOTH OFF」と表示されています。エンコーダーを再度押すとBluetoothがオンになり、緑色のボックスに「BLUETOOTH ON」と表示されます。Bluetoothがオンになったら、アンプに接続した外部機器で「MUSTANG GT」を選択します。ユーザーの外部機器に表示される「Mustang GT」の名称を変更するには、アンプ画面のギアアイコン横の、コントロールレイヤーボタンを押し、エンコーダーを使用して、新規名称の文字を入力していきます(6ページ参照)。プリセットレイヤーボタンおよびコントロールレイヤーボタンを押すと、いくつかのメニューの終了(「×」マーク)や、前の手順への復帰(「back」)ができます。

外部機器の音量レベルは、外部機器側で設定します。BluetoothオーディオストリーミングとUSBオーディオ(33ページ)は同時使用できません。



Bluetoothを有効にするには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押します。



エンコーダーを使って「BLUETOOTH」までスクロールし、エンコーダーを押してBluetooth設定にアクセスします。



Bluetoothは初期設定ではオフ(赤色のボックスに表示)です; エンコーダーを押すとオンになります(緑色のボックスに表示)。



アンプのBluetooth機能をオン(緑色のボックスに表示)にしたら、外部機器上で「MUSTANG GT」を選択します。

内蔵チューナー

Mustang GTの内蔵チューナーにアクセスするには、「TAP」ユーティリティボタンを2秒間長押しするか、「MENU」ユーティリティボタンを押して、エンコーダーを回し／押して「TUNER」(チューナー)を選択します。音程がずれている場合、中央の縦線の左(低い)／右(高い)に音名の黄色い円が、画面下部にはピッチの差異がセント単位で表示されます。音程が正確な場合、緑色の円が、中央の縦線上に表示されます。チューニングが終わったら、プリセットレイヤーボタンを押して、チューナーモードを終了します(下図参照)。チューナー使用中はスピーカー出力がミュートされますのでご注意ください。MGT-4 フットスイッチにもチューニング機能があります(40ページ参照)。



チューナーを使用するには、「MENU」ユーティリティボタン(黄色の矢印)を押して、「TUNER」を含むオプションを表示するか、「TAP」ユーティリティボタンを長押しします(緑色の矢印)。



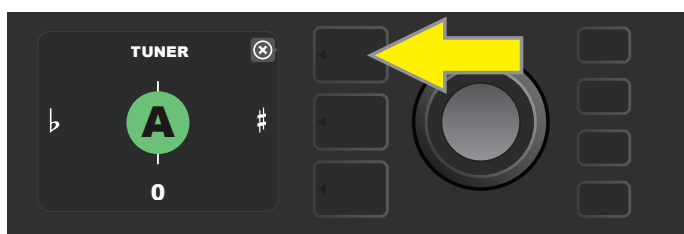
エンコーダーを回し／押して、リストから「TUNER」を選択します(または「TAP」ユーティリティボタンを2秒以上長押し)。



音程が合っていないと、音名は黄色い円で、中央縦線の左(低い)または右(高い)に表示されます。音程の差異はセント単位で下部に表示されます。



正確な音程では、音名は緑色の円で、中央の縦線上に表示されます。



チューナーを終了するには、プリセットレイヤーボタンを押します。

AUXおよびヘッドフォンジャック

Mustang GTのコントロールパネルには、2つの1/8インチ ジャックがあります。外部モバイル／オーディオ機器を接続するAUX入力ジャックと、ヘッドフォンの使用に便利な出力ジャックです。

AUX入力に外部機器を接続した際、その音量は、アンプではなく外部機器の音量コントロールで設定します(アンプの音量コントロールは全体音量を制御するため、AUXに接続した外部機器の音量を個別に調節できません)。また、ヘッドフォン接続時にはスピーカーがミュートされますので、併せてご注意ください。

USB接続

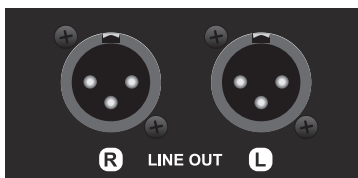
Mustang GTの背面パネルには、録音に使用するUSBオーディオポートが装備されています。マイクロUSBケーブル(非付属)を使用し、録音ソフトウェアをインストールしたコンピューターを、このポートに接続します。アップルコンピューターの場合、外部ドライバーは不要です。Windowsコンピューターと接続する場合、Fender Mustang機器を使用するには、ASIOドライバーをあらかじめ次のURLよりインストールする必要があります。www.fender.com/support/articles/fender-universal-asio-drive。USBオーディオとBluetoothオーディオストリーミング(31ページ)の同時使用は **できません** のでご注意ください。



背面パネルのUSBポート拡大図。

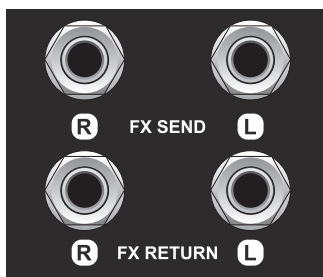
ライン出力 および FXセンド/リターン

Mustang GTアンプリファァの背面パネルには、外部録音機器およびSR(PA)機器を接続するためのバランスライン出力ジャック(右／左) が装備されています(下図参照)。



背面パネルに装備された、左右バランスライン出力の拡大図。

Mustang GT100 および GT200 は、エフェクトループを装備しています。左右のFXセンドおよびFXリターンジャックは、背面パネルの右端に位置し、モノラルまたはステレオの外部エフェクト接続に使用します(下図参照); モノラルエフェクトは、左右いずれかのチャンネルに接続します。ジャックに接続したエフェクトは "グローバル" (特定のプリセットのみではなく、全プリセットに作用する) となり、信号経路の一番最後に接続されます。



背面パネルに搭載された、FXセンド/リターンの左右ジャック。

フットスイッチの使用

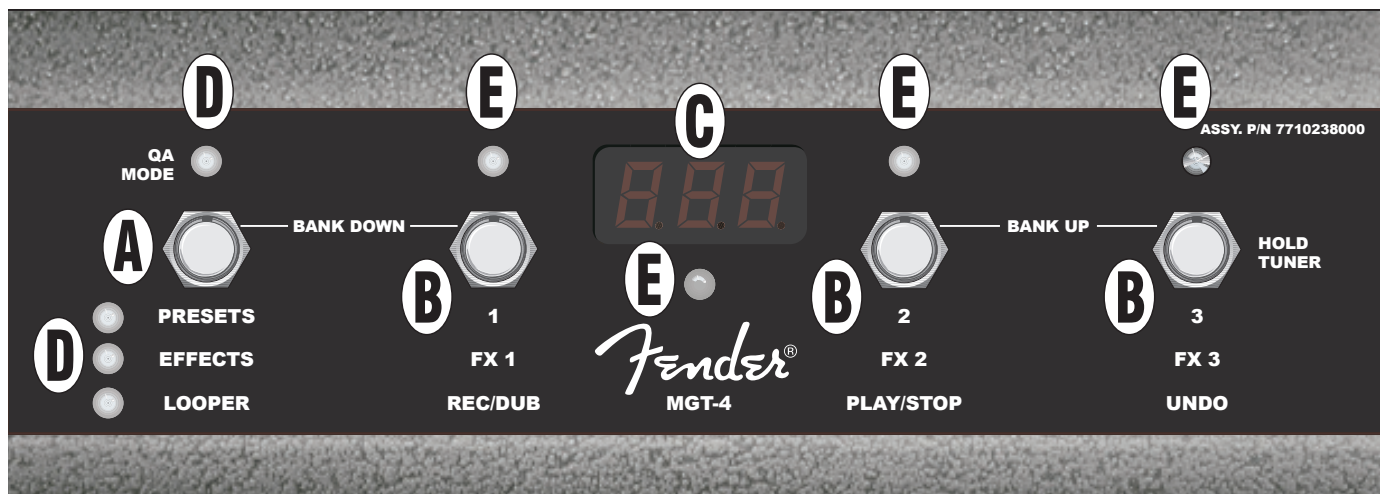
Mustang GTアンプリファァでは、**MGT-4フットスイッチ**および、**EXP-1エクスプレッションペダル**の、2種類のフットスイッチを使用できます。

4ボタン式 MGT-4 フットスイッチはMustang GT200には付属、Mustang GT40 および GT100では別売となります。フットスイッチを使用すると、内蔵チューナー、アンププリセット選択、クイックアクセス プリセット選択、エフェクトバイパス、60秒ルーパーほか、数種類の機能を便利に遠隔操作できます。EXP-1エクスプレッションペダルは、Mustang GTの全3種類のアンプでオプションとなりますが、Mustang GTの音量およびアンプ／エフェクトパラメーターを制御するデュアルモード デジタルペダルです。

各ペダルのいずれかをアンプ背面パネルの「FOOTSWITCH」ジャックに接続して個別に使用、または両ペダルを「チェーン接続」して同時使用します (EXP-1エクスプレッションペダル底面に、チェーン接続の手順が記載されています)。

MGT-4 フットスイッチの機能

MGT-4 フットスイッチのレイアウトには、4個のボタンがあります — 一番左のMODE(モード)ボタンと、1～3の番号が振られた3個の機能ボタンです。左端に縦に4つのモードLED (モードボタンの真上に1つ、その左下に3つ)、上列右に向かって機能LEDが水平に3つ並んでいます (機能LEDは、各機能ボタンの上に位置しています)、そして中央、ディスプレイウィンドウのすぐ下に、機能LEDがもう1つ装備されています。



- A. **MODE(モード) ボタン:** 4つのモードのいずれかを選択するのに使用します: クイックアクセス (“QA”)、プリセット、エフェクト、そしてルーパーです。
- B. **機能ボタン:** 番号が振られた3つのボタンで、選択するモードによって異なる、Mustang GTの各種機能を制御します。
- C. **ディスプレイウィンドウ:** 現在使用中のフットスイッチの機能を表示します。
- D. **MODE(モード) LED:** 左端に縦に並ぶ4つのLEDで、現在のモードを示します — QA(クイックアクセス、赤色)、PRESETS(プリセット、赤色)、EFFECTS (エフェクト、緑色)、そしてLOOPER (ルーパー、アンバー)となります。一番上のモード LEDは、場合によって機能LED(E)として動作することもあります。
- E. **機能 LED:** 各フットスイッチの上に並ぶ赤色LEDと、ディスプレイウィンドウ(C)下の緑色LEDで、使用中の各種機能を表示します。左端一番上のモード LED(D)は、場合によって機能LED(E)として動作することもあります。

MGT-4 フットスイッチ：モード

MGT-4 フットスイッチには優れた4種類のMustang GTモード — QA(クイックアクセス)、PRESETS(プリセット)、EFFECTS(エフェクト)および LOOPER(ルーパー)があります。モードを選ぶには、まず左端のモードボタン(A)を、任意のモードになるまで繰り返し踏みます。現在のモードは、モードLED(D)で確認します。

クイックアクセス モード

クイックアクセスモード(“QA”)では、ユーザーが3つのプリセットを任意でセレクトし、各機能ボタンに割り当てることができます。これをおこなうには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーでメニューをスクロールして、「QUICK ACCESS」(クイックアクセス)を選択します。クイックアクセスプリセットは初期設定では、Mustang GTの最初の3つのプリセットになっています。

クイックアクセスの3つのポジションに、別のプリセットを割り当てるには、エンコーダー回してスクロールし、任意のクイックアクセス スロット(1、2または3のいずれか)を選択します。スロットを選択したら、表示されたプリセットリストをスクロールし、クイックアクセス スロットに割り当てるプリセットを選んで、エンコーダーを押します。残りの2つのスロットも同様の手順で割り当てます。

クイックアクセス モードに3つのプリセットを割り当てると、MGT-4 フットスイッチでアクセス可能になります。モードボタンを、左上端のモードLEDが赤色に点灯し、QAモードが有効になるまで踏みます。すると3つのクイックアクセスプリセットが、1、2および3の3つの機能ボタンに割り当てられます。機能ボタンを踏んで有効にすると、対応する機能LEDが赤色に点灯し、ディスプレイウィンドウには使用中のクイックアクセス プリセットが表示されます(下図参照)。



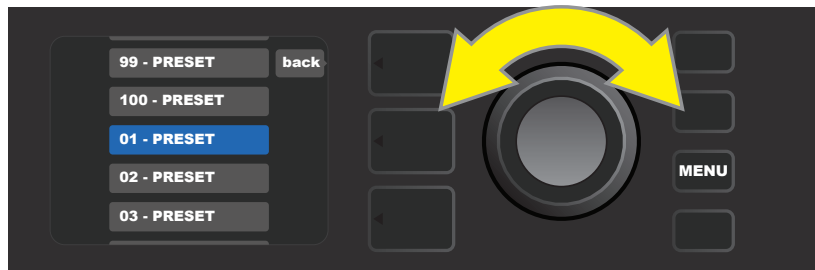
クイックアクセスモードを設定するには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押します。



エンコーダーを使ってスクロールし、「QUICK ACCESS」を選択します。



エンコーダーでスクロールし、プリセットを割り当てるクイックアクセス スロットを選択します。



エンコーダーを使ってスクロールし、前の手順で選択したプリセットスロットに割り当てるプリセットを選択します。



「QA MODE」モードLEDが点灯するまで、フットスイッチのモードボタン(緑色の矢印)を踏みます。3つのクイックアクセス プリセットが機能ボタン1、2および3(黄色の矢印)に割り当てられ、使用中のプリセットの赤色LEDが点灯します。ディスプレイウィンドウには、使用中のクイックアクセス プリセットが表示されます(図ではクイックアクセス プリセット1)。

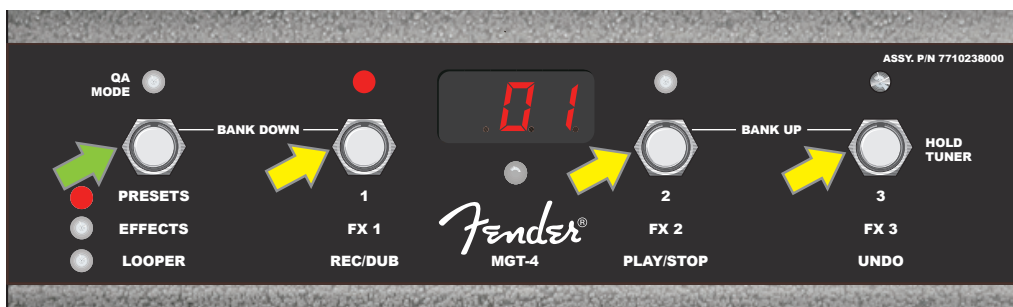
プリセットモード

プリセットモードでは、数多くあるMustang GTのプリセットに、MGT-4フットスイッチでアクセスできます。まず最初に、横に「PRESETS」と表記された赤色のモードLEDが点灯し、プリセットモードが有効になるまで、モードボタンを踏みます。

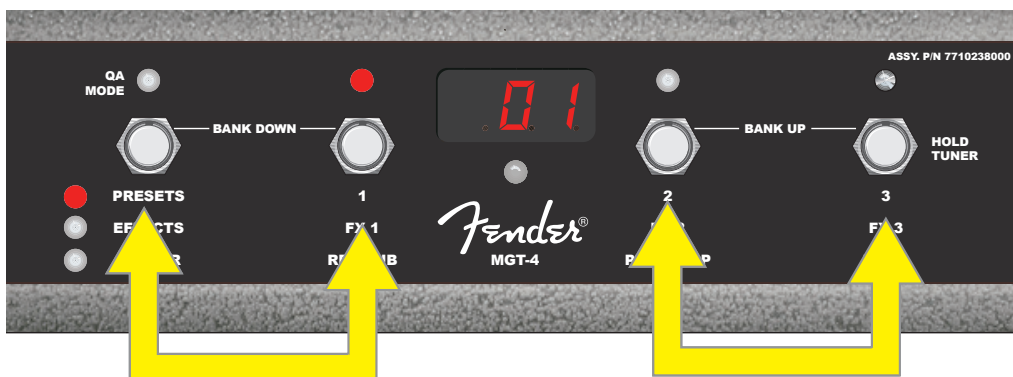
MGT-4 フットスイッチがプリセットモードになると、プリセットは、連続した3つのプリセットを一組にした「バンク」という単位で利用可能になります。バンクの3つのプリセットは、それぞれ機能ボタン1、2および3に割り当てられます。続く3プリセットを組にしたバンクに移行するには、機能ボタン2および3を同時に踏みます(フットスイッチに「BANK UP」と表記)。一組前のバンクに戻る時は、モードボタンと機能ボタン1を同時に踏みます(フットスイッチに「BANK DOWN」と表記)。

目当てのプリセットを含むバンクにたどり着いたら、対応する機能ボタンを踏み選択します。プリセットを選択すると、対応する赤色LEDが点灯し、ディスプレイウィンドウに使用中のプリセットが表示されます(次ページの図を参照)。

プリセットモードを有効にすると、MGT-4 フットスイッチは、MUSTANG GTで選択しているプリセットに自動設定されます。その際プリセットはバンク内での位置(1、2または3)に応じ、フットスイッチの機能ボタンに割り当てられます。たとえば、アンプでプリセット33番を選択している時、MGT-4フットスイッチをプリセットモードにすると、フットスイッチにはプリセット33番が設定され、そのプリセットは機能ボタン3に割り当てられます(31、32、33が一組のバンクとなるため、その3番目のプリセットとして扱われます)。



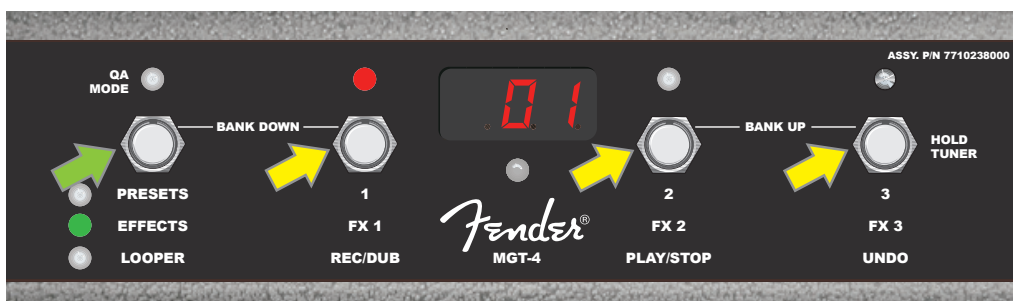
モードボタン(緑色の矢印)を、赤色の「PRESETS」モードLEDが点灯するまで踏みます。アンプで選択しているプリセットを含む、3プリセット一組の“バンク”が、機能ボタン1、2および3(黄色の矢印)に割り当てられます。各機能ボタンには赤色LEDが備わり、割り当てられたプリセットの使用中に点灯します。ディスプレイウィンドウにも使用中のプリセットが表示されます(図ではプリセット1)。



プリセットモードでは、機能ボタン2および3(右側のダブル矢印)を同時に踏むと、番号順で次のバンクへ移動します(「BANK UP」)。逆に、番号の若いプリセットバンクに切り替えるには、モードボタンおよび機能ボタン1(左側のダブル矢印)を同時に踏みます(「BANK DOWN」)。バンク内の任意のプリセットを選択するには、対応する機能ボタンを踏みます(図では機能ボタン1)。

エフェクトモード

エフェクトモードでは、プリセット内の最初の3つのエフェクトをバイパスできます。まずモードボタンを、「EFFECTS」の文字の左横にある、緑色のモードLEDが点灯し、エフェクトモードが有効になるまで踏みます。アンプで選択しているプリセットに応じて、プリセット内の最初3つのエフェクト(ある場合)が、機能ボタン1、2および3に割り当てられます(この用途のため、フットスイッチの各ボタンに、「FX 1」「FX 2」「FX 3」と表記されています)。任意のエフェクトをオンにすると、そのエフェクトが割り当てられた機能ボタンに対応する、赤色の機能LEDが点灯します。対応する機能ボタンを踏むとエフェクトがバイパスされ、赤色の機能LEDが消えます(下図参照)。



「EFFECTS」モードLEDが点灯するまでフットスイッチのモードボタン(緑色の矢印)を踏みます。アンプで選択中のプリセットの最初の3つのエフェクトが、機能ボタン1、2および3(黄色の矢印)に割り当てられます; 有効になっているエフェクトと対応する赤色の機能LEDが点灯します。上の例では、機能ボタン1(FX 1)に割り当てられたプリセットエフェクトがオンになっており、このボタンを踏むことでバイパスできます。

ルーパーモード

ルーパーモードでは、最長60秒間のループを録音、その上にパートをオーバーダビングできます。オーバーダブしたパートは、オリジナルの録音パートに何層ものレイヤーとして重ねることができます；ただし、取り消しができるのは最後にオーバーダブしたパートのみです。

ループを録音するには、まずモードボタン(図の緑色の矢印)を、アンバー色のモードLEDが点灯し「LOOPER」(ルーパー)モードが有効になるまで踏みます(下図参照)。



1番目の音楽パッセージの録音を開始するには、「REC/DUB」と表記された機能ボタン1(下図の黄色い矢印)を踏みます。機能ボタン1の上、赤色の機能LEDが点滅しはじめ、ディスプレイウィンドウに「REC」と表示されて、ルーパーが録音モードになります；最長60秒に収まるようパッセージを演奏します(下図参照)。



1番目の音楽パッセージを演奏し終わったら、「PLAY/STOP」と表記された機能ボタン2を踏むと、録音が停止し、自動的にパッセージが再生されます(下図の黄色の矢印)。機能ボタン1の上、赤色の機能LEDが消灯し、機能ボタン2の上の赤色の機能LEDが点灯、そしてディスプレイウィンドウに、再生中を意味する「PLA」の文字が表示されます(下図参照)。再生を停止するには、機能2ボタンを再度押します；ディスプレイウィンドウには「STP」と表示されます(下図には描かれていません)。



また、1番目の音楽パッセージの演奏後、機能ボタン1（下図の黄色い矢印）を再度踏むと、即オーバーダブモードになります；機能ボタンの上の赤色の機能LEDは点滅が継続し、ディスプレイウィンドウに「DUB」と表示され、ルーパーはオーバーダブモードになり、2番目の音楽パッセージを、1番目に重ねて録音できるようになります。オーバーダブモードは、最初のパッセージの再生中または再生停止後に、機能ボタン1を再度踏むことでも有効になります。音楽パッセージのオーバーダビングを心ゆくまで続けます。オーバーダブが録音できたら、機能ボタン2（下図の緑色の矢印）を踏んで、録音した全パートの再生および再生停止をします（下図参照）。



1番目の音楽パッセージの録音、再生／停止などの間に、「UNDO」と表記された機能ボタン3（下図の黄色い矢印）を踏むと、録音の取り消し（UNDO）ができます。取り消しをおこなうと、録音が停止してディスプレイウィンドウに3本のダッシュが表示され、録音が消去されたことを表します。オーバーダブをおこなっていた場合、最後のオーバーダブのみが取り消されます；それ以前のオーバーダブの取り消しはできません（下図参照）。



MGT-4 フットスイッチ：チューナー

MGT-4 フットスイッチでハンズフリーチューニングもできます。まず、機能ボタン3を少し長めに踏みます(下図の黄色い矢印)。「HOLD TUNER」と表記)。するとクロマチックチューナーが有効になります。ディスプレイウィンドウに、鳴らした音程に最も近い音名が表示されます；フラット（低め）では左上2つの赤色の機能LEDが、シャープ（高め）では右上2つの赤色の機能LEDが、ピッチの隔たりの程度により点灯します。正確な音程では、ディスプレイウィンドウ下の機能LEDが緑色に点灯します。チューニングが完了したら、機能ボタン3を再度踏み、プレイモードに戻ります(下図参照)。MGT-4 フットスイッチチューナーの使用時には、スピーカー出力がミュートされますので、どうぞご注意ください。



MGT-4 フットスイッチのチューニング機能を有効にするには、機能ボタン3を少し長めに踏みます(黄色い矢印)。図では、上段左端の赤色機能LED(緑色の矢印)が点灯し、かなりフラットした“A”音であることが表示されています。



図では、上段右 中央寄り赤色の機能LED(黄色の矢印)が点灯し、少しシャープした“A”音であることが表示されています。



図では、ディスプレイウィンドウ下、ペダル中央に位置する機能LED(黄色の矢印)が緑色に点灯し、正確な音程の“A”音であることが表示されています。チューニングが完了したら、機能ボタン3(緑色の矢印)を踏み、フットスイッチ チューニング機能を終了します。

EXP-1 エクスプレッションペダル

EXP-1 エクスプレッションペダルは、デュアルモードのフットコントローラーで、マスター音量(ボリュームモード)、およびアンプとエフェクトの各種パラメーター(エクスプレッションモード)を制御できます。

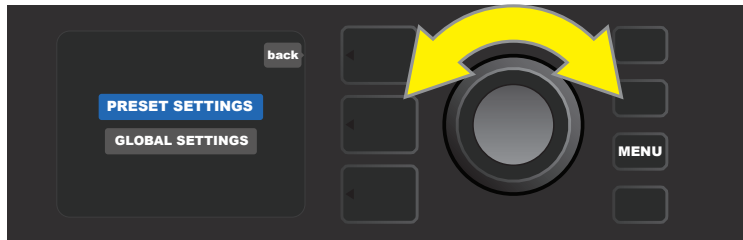
ボリュームモードとエクスプレッションモードを切り替えるには、トウスイッチ(ペダル上側)を踏みます。使用中のモードは赤色および緑色のLEDで判別できます。ボリュームモード(緑色LED): マスター音量の調節、またはオフにします。エクスプレッションモード(赤色LED): ワウエフェクト周波数、モジュレーションエフェクトのレートなど、Mustang GTの数あるエフェクトパラメーターをコントロールします。



EXP-1を使用するには、まずアンプ背面フットスイッチジャックに接続し、アンプをオンにします。アンプの「MENU」ユーティリティボタンを押し、表示されたメニューをエンコーダーでスクロールし、「EXP-1 SETUP」を選択します(下図参照)。

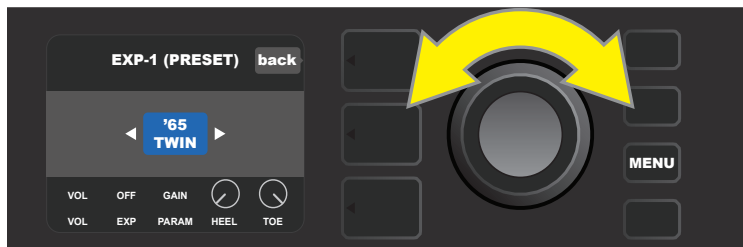


画面に「PRESET SETTINGS」(プリセット設定)と「GLOBAL SETTINGS」(グローバル設定)が表示されます(下図参照); エンコーダーでいずれか一方を選択します。プリセット設定は、EXP-1に任意のプリセット内で特定のアンプまたはエフェクトを割り当てる際に使用します。各アンプやプリセットに応じて、多くのパラメーターを編集することができます。グローバル設定では、全プリセットに影響するパラメーターの編集をおこないます。各設定は以下に詳しく解説します。



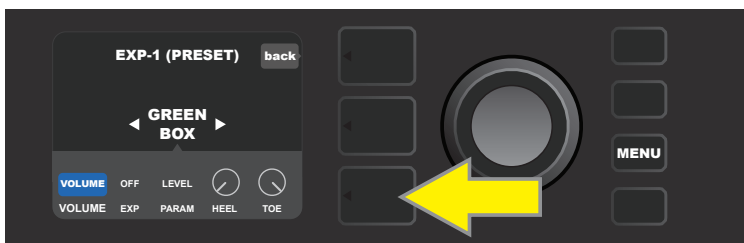
プリセット設定

上述のとおり、プリセット設定は、任意のプリセット内でEXP-1に特定のアンプまたはエフェクトを割り当てる際に使用します。まず、エンコーダーで「PRESET SETTINGS」を選んで押します。中央のシグナルパスレイヤーで、EXP-1に割り当て可能な、プリセット内のアンプおよびエフェクト(1度に1種類)を表示します。エンコーダーを回してスクロールできます(下図参照)。



EXP-1 プリセット設定では、EXP-1に割り当てるプリセット内アンプおよびエフェクトが、シグナルパスレイヤーに1つずつ表示されます; エンコーダーを回してスクロールします。上図では、'65 Twinアンプがハイライトされています。

シグナルパスレイヤーでアンプまたはエフェクトをハイライトすると、下段コントロールレイヤーに、そのプリセットで設定可能なEXP-1項目が表示されます。コントロールレイヤーボタンを押し、コントロールレイヤーに入ります（下図参照）。



EXP-1にプリセット内の特定のエフェクトを割り当てるには、コントロールレイヤーボタン(黄色の矢印)を押して、パラメーター(PARAM)を含む、エフェクトの項目にアクセスします。図では、EXP-1でGreen Boxオーバードライブ ストンプボックスエフェクトを制御します。

エンコーダーを回してスクロールし、「PARAMETER」(パラメーター)を選択します。シグナルパスレイヤーに表示されたアンプまたはエフェクトの、EXP-1のエクスペリメンテーションモードで制御したいコントロールパラメーターを選択可能になります（下図参照）。



エンコーダー(黄色い矢印)を回し、「PARAMETER」をハイライトします。シグナルパスレイヤーに表示されているエフェクトの、各種コントロールにアクセスします。図のGreen Box オーバードライブパラメーターの1つ「LEVEL」は、EXP-1に割り当て可能です。

選択すると、パラメーターボックスが青色から赤色に変わります。するとエンコーダーで各種コントロールパラメーターをスクロール可能になります; EXP-1ペダルで設定変更をおこなう、任意の項目でエンコーダーを押します（下図参照）。コントロール項目を選択すると、表示が青色から赤色になり、調節可能になります。調節が完了したら、エンコーダーを再度押します。すると新規パラメーター値が決定され、コントロールは青色に戻ります。



上図では、「LEVEL」の上でエンコーダーを押しています。ボックスが青色から赤色に変わり、Green Boxオーバードライブエフェクトのパラメーターが、EXP-1を使って変更できるようになったとわかります。

パラメーター調整が完了したら、「SAVE」ユーティリティボタンを押し、パラメーター変更を保護します（下図参照）。



コントロールレイヤーには、ほかにも数種類のEXP-1 モードがあります。エンコーダーで各種モードとそのオプションをスクロール、選択します。モードの詳細は以下の通りです:

ボリュームモード (“VOL”): EXP-1 ボリュームモード(緑色LED) のペダル機能をオフにします (下図参照)。

エクスプレッションモード (“EXP”): 3種類の異なった割り当てができます。「OFF」: EXP-1エクスプレッションモード ペダル機能(赤色LED)をオフにします。「VOLUME」: EXP-1でマスター音量を調節できるよう設定します(上記「VOLUME MODE」と同様)。「AMP/FX」: シグナルパスレイヤーに表示されているアンプまたはエフェクトをEXP-1 で制御できるよう設定します。

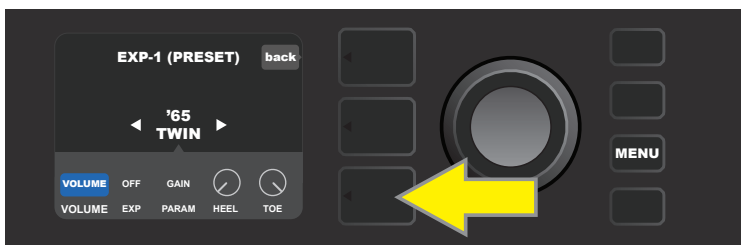
HEELおよびTOEモード: とともに、制御するパラメーターの範囲を指定します。

LIVE モード: 「ON」の時には、設定したパラメーターは、ペダルの位置と同一の値に即ジャンプするよう”命令”されます。「OFF」の時には、ペダルが実際に動作を開始するまで、ペダルの初期ポジションは”無視”され、その後は、ペダルのパラメーターと同期します。

BYPASS モード: 「ON」にするとEXP-1のトゥ スイッチでエフェクトのバイパス オン／オフができます。

REVERT モード: 「ON」にすると、トゥスイッチでエクスプレッションモードからボリュームモードに切り替えた時、設定パラメーターはプリセットに記憶されている値に戻ります。

DEFAULT モード: そのプリセットにおける EXP-1の初期モード (ボリュームまたはエクスプレッション)を設定します。グローバル設定の機能である”MODE SOURCE”(モードソース)が ”PEDAL”(ペダル)に設定されていると、デフォルトモードよりもペダルが優先されます (次ページ ”グローバル設定” 参照)。



図の例では、シグナルパスレイヤーの'65 Twinで、EXP-1ボリュームモード ペダル機能をオフにするには、まずコントロールレイヤーボタンを押します。コントロールレイヤーで「VOLUME」モードが自動的にハイライトされます。



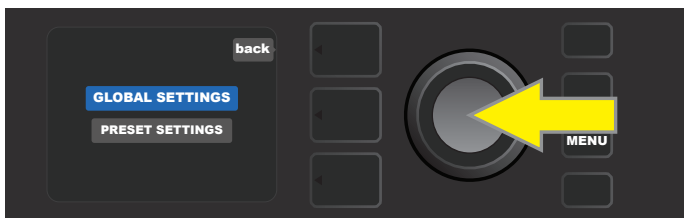
「VOLUME」の上でエンコーダーを押します。ラベルボックスが青色から赤色に変わり、設定が変更可能になったことがわかります。



エンコーダー(黄色い矢印)を回して「OFF」にし、押して「OFF」設定を確定します。シグナルパスレイヤーに表示されているアンプでの、EXP-1 ボリュームモード ペダル機能はオフになり、ラベルボックスは青色に戻ります。「SAVE」ユーティリティボタン(緑色の矢印)を押し、変更を保護します。

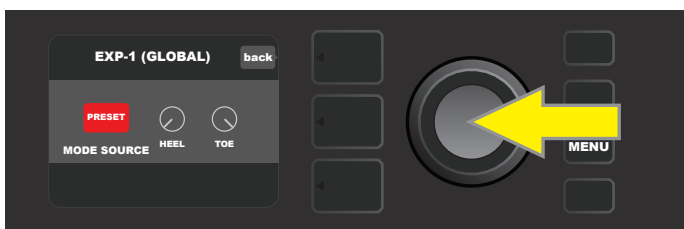
グローバル設定

先述の通り、グローバル設定では EXP-1 をすべてのプリセットに割り当てます。まず「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーをスクロールして「EXP-1 SETUP」(EXP-1 設定)をハイライトします。エンコーダーを再度押し、「GLOBAL SETTINGS」(グローバル設定)をハイライトします(下図参照)。



「GLOBAL SETTINGS」の上でエンコーダーを押します。すると編集可能な3種のパラメーターが表示されます。「MODE SOURCE」(モードソース)、「HEEL」(ヒールボリューム) および「TOE」(トゥボリューム) です。モードソースでは「PRESET」(プリセット)と「PEDAL」(ペダル)のいずれかを選択します。「PRESET」にすると、EXP-1のモード(ボリュームまたはエクスプレッション)を、プリセット側で決定します(プリセット毎に変えられます)。「PEDAL」に設定すると、EXP-1のモードがプリセットの設定に優先し、現在のモードを継続します。

エンコーダーを押し、その後回して「PEDAL」または「PRESET」を選択します。ラベルボックスが青色から赤色に変わります(下図参照)。いずれかを選んでエンコーダーを再度押すと、選択を確定し、ラベルボックスは青色に戻ります。



「HEEL」(ヒールボリューム)および「TOE」(トゥボリューム)は、ともにペダルで制御するボリュームの範囲を設定します。初期設定では範囲は1-10で、かかと側が一番下がった状態で1(音量なし)、つま先側が一番下がった状態で10(フル音量)に設定されています。この制御範囲は必要に応じて変更可能です。ヒールボリュームコントロールで任意の最小音量を、トゥボリュームコントロールで任意の最大音量を設定します。

エンコーダーを使ってスクロールし「HEEL」および「TOE」コントロールを選択します。どちらも選択すると青色から赤色に変わり、調節可能になります。調整が終わったら、エンコーダーを再度押して調節したコントロール値を保護すると、コントロールはまた青色に戻ります(下図参照)。



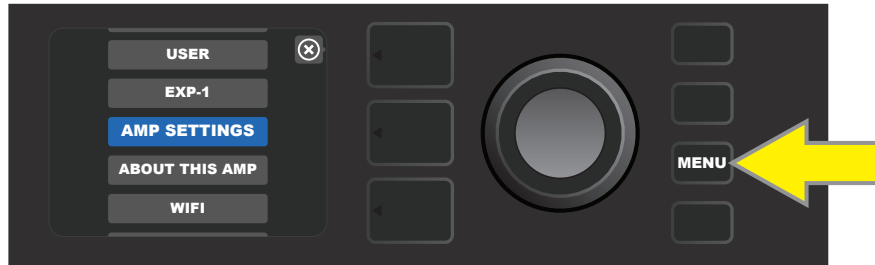
グローバル設定の変更は自動的に保存されます; そのため別途「SAVE」の手順は不要です。

アンプ設定

”アンプ設定”はメニューユーティリティボタンの機能で(25ページ参照)、プリセットおよびアンプを工場出荷時の設定に素早く復元します。まず、「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーを使って「AMP SETTINGS」を選択します。表示される3つのオプションをスクロール／選択します。「RESTORE PRESETS」(プリセット復元)はプリセットを、「RESTORE SETTINGS」(設定復元)はアンプ設定を、「RESTORE ALL」(すべてを復元)は両方を、それぞれ工場出荷時の設定に復元します(下図参照)。

「RESTORE ALL」(すべてを復元)機能は、スタートアップオプションでもアクセス可能です。詳しくは本マニュアル50ページの「ファームウェアアップデートおよび工場出荷状態への復元」をご参照ください。

ディスプレイウィンドウの円で囲った「X」マークの横の、プリセットレイヤーボタンを押すと、各メニューを閉じます。



アンプ設定機能にアクセスするには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押します。



エンコーダーを使ってスクロールし、「AMP SETTINGS」を選択します。

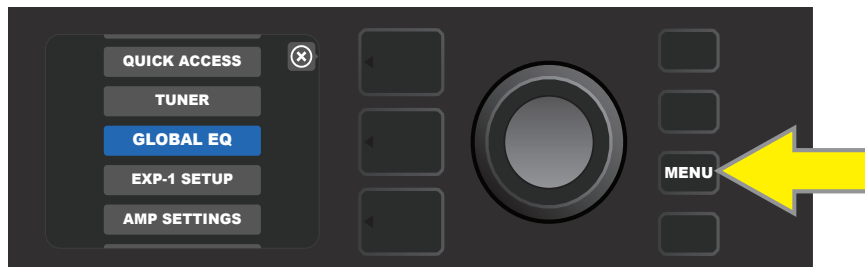


エンコーダーを使ってスクロールし、アンプ設定の3つのオプションからいずれか一つを選択します。

グローバル EQ

“Global EQ”(グローバルEQ)はメニューユーティリティボタン機能(25ページ参照)で、4種類のイコライゼーションカーブにアクセスします。音響環境に応じて、全体的なアンブレスポンスを調整します。この機能は、特定の部屋やホール、屋外等において、お好みの複数のプリセットや設定をロードしてみて、全体に高域が強い／低音が膨らんでいる等感じられるような場合、特に役立ちます。各プリセットや設定を一つ一つ再調整するよりも、素早く簡単に、4つの異なるEQプロファイルのうちから、現在の音響環境に最も適したものをお選びいただけます。

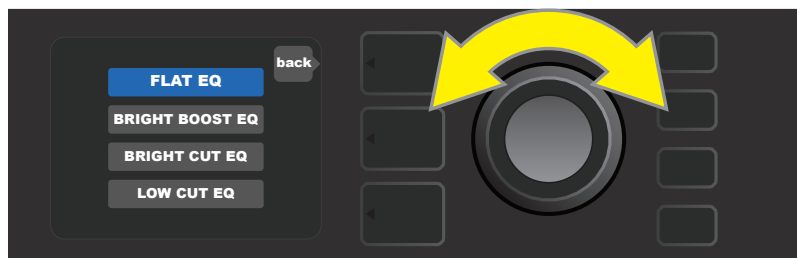
この機能を有効にするには、「MENU」ユーティリティボタンを押し、エンコーダーをスクロールして「GLOBAL EQ」を押し、選択します。表示された4つのオプションをスクロールし、1つを選択します。「FLAT EQ」(フラットEQ):EQは追加しません。初期状態ではこれを選択すると良いでしょう。「BRIGHT BOOST EQ」(ブライトブーストEQ): トップエンドを強調します。「BRIGHT CUT EQ」(ブライトカットEQ): トップエンドを弱めます。「LOW CUT EQ」(ローカットEQ): ベースレスポンスをトリミングします(下図参照)。



グローバルEQ機能にアクセスするには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押します。



エンコーダーを使ってスクロールし「GLOBAL EQ」を選択します。



エンコーダーを回して、4つのグローバルEQオプションをスクロールし、任意のオプションをハイライトします。



エンコーダーを押して、任意のグローバルEQオプションの選択を確定します。

クラウドプリセット

”クラウドプリセット”はメニューユーティリティボタン機能(25ページ参照)で、この機能により、アンプ内のプリセット以外の、フィーチャードプリセット、アーティストプリセットほか、多種多様なプリセットにアクセスできます。アンプリファァーのWiFi接続を通して、クラウドに保存されているFenderプリセットをプレビュー、プレイ、ダウンロードおよびシェアでき、それにより、Mustang GTの創造的可能性がぐっと広がります。

クラウドプリセットを使用するには、まず「MENU」ユーティリティボタンを押し(下図の黄色い矢印)、表示されたメニューをエンコーダー(緑色の矢印)でスクロールし、「CLOUD PRESETS」をハイライトして押し、選択します。



メニューから「CLOUD PRESETS」を選択したら、ディスプレイウィンドウの指示にしたがい、ログインコードを入力します。ログインコードは **tone.fender.com** で「Set Up Amp」をクリックし、発行されたものを用います(下図参照)。コードを入力する必要があるのは1度だけです; 1度コードを入力すれば、ログイン状態が持続します。エンコーダーを使って、コードの各文字を入力します(6ページ参照)。



ログインしたら、エンコーダーを使用して、クラウドプリセットカテゴリーを閲覧します(下図参照)。



クラウドプリセットカテゴリーを選び、その上でエンコーダーを押すと、プリセットのリストが表示されるのでスクロール(下図の黄色の矢印)します。ハイライトしたプリセットが自動的に再生/プレビューされます。ハイライトしたプリセットをアンプに追加するには、「SAVE」ユーザーボタンを押します(緑色の矢印)。



ハイライトしたクラウドプリセットを、上記のようにアンプへ保存する前に、個別の内容を閲覧または編集する場合は、プリセットの上でエンコーダーを押します（下図参照）。



アンプへの保存前に、クラウドプリセットを閲覧、編集する際、ディスプレイウィンドウに、プリセットの内容が、緑色のクラウドマークを伴い表示されます（内蔵プリセットでプリセット番号が表示される場所）。緑色のクラウドマークは、プリセットがクラウドプリセットで、まだアンプに保存されていないことを意味します。クラウドプリセットの編集は、内蔵プリセットと同様にできます。編集が完了したら、「SAVE」ユーティリティボタンを押し、編集したクラウドプリセットをアンプに保存します。クラウドプリセットを選択中に、ユーザーがその前後のプリセットへスクロールすると、そのクラウドプリセットはまだアンプに保存されていないため、消去されてしまいます（下図参照）。



このアンプについて

「このアンプについて」はメニューユーティリティボタン機能（25ページ）で、アンプの現在のファームウェアバージョンを表示します。この情報を表示するには、「MENU」ユーティリティボタン（下図の黄色の矢印）を押し、エンコーダー（緑色の矢印）を使ってスクロールし「ABOUT THIS AMP」を選択します。

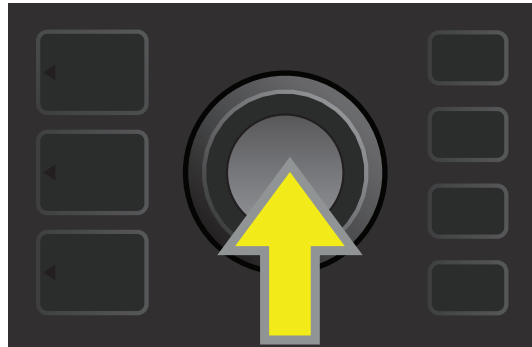


「ABOUT THIS AMP」を選択すると、ディスプレイウィンドウにアンプモデルおよびファームウェアバージョン情報が表示されます（下図参照）。

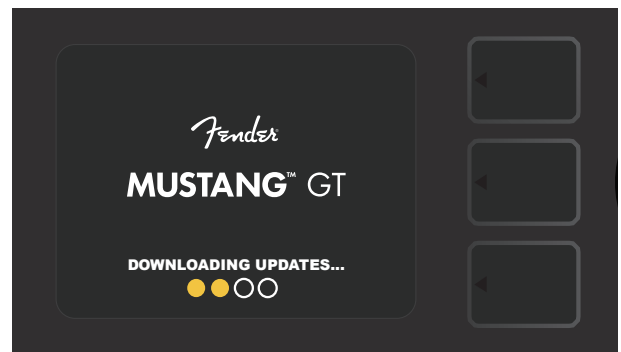
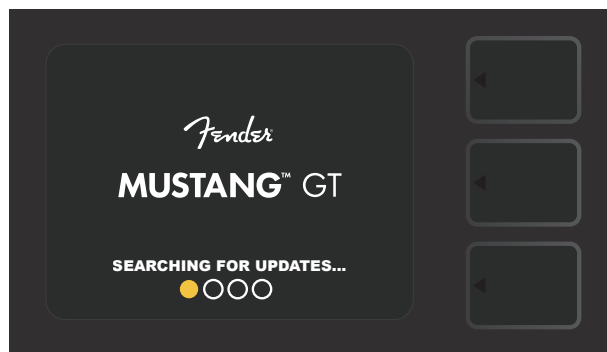


ファームウェアアップデートおよび工場出荷状態への復元

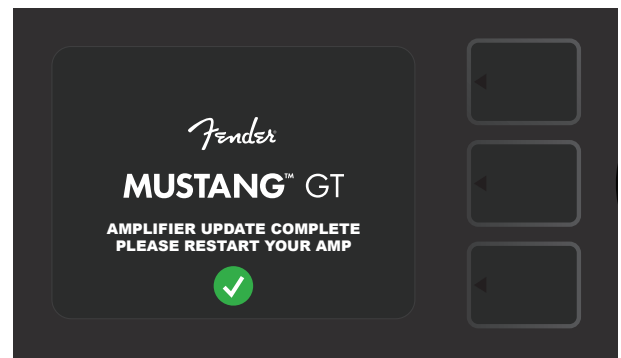
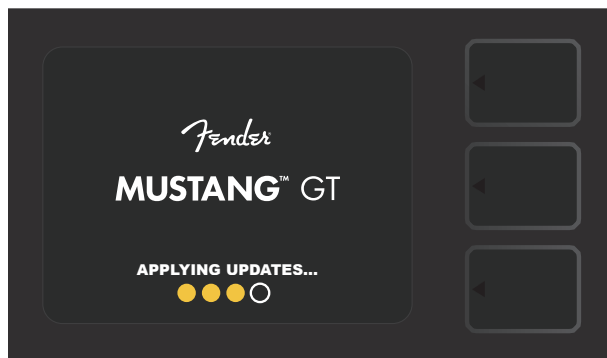
”はじめに”の項に記載されている通り、Mustang GTの操作性向上や機能拡張等のため、定期的にファームウェアアップデートをチェックして下さるようお願いいたします。Mustang GTのファームウェアをアップデートするには、アンプリファアの電源をオンにしながら、エンコーダー（下図の黄色い矢印）を5秒間長押しして、アンプをWiFiアップデートモードにします。



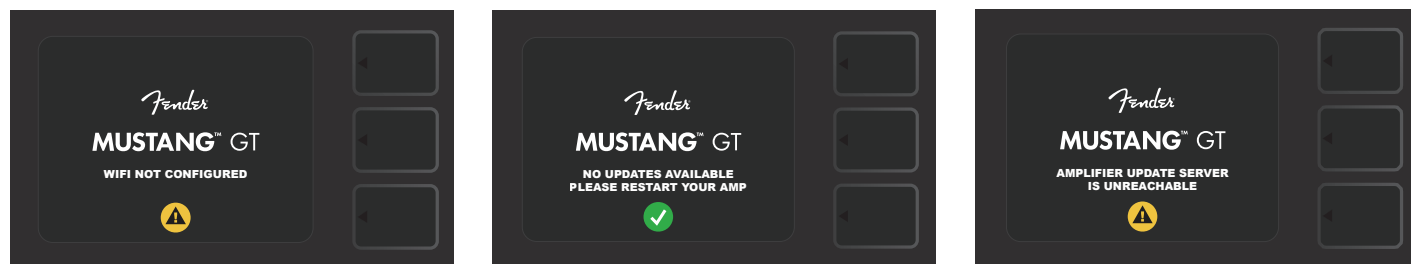
ディスプレイウィンドウに、Mustang GTの最新ファームウェアアップデートのサーチ状況、続いてファームウェアのダウンロード状況が表示されます（下図参照）。



ダウンロードが完了すると、ディスプレイウィンドウに、Mustang GTのファームウェアアップデートが実行中であることが表示され、続けてファームウェアアップデートの完了、アンプの再起動を促す指示が表示されます（下図参照）。



ファームウェアアップデート実行の際、アップデートが開始できないケースが3つあります。その場合、ディスプレイウィンドウに、「WIFI NOT CONFIGURED (Mustang GTのWiFi接続が確立していない)」「NO UPDATES AVAILABLE(利用できるアップデートがない)」「AMPLIFIER UPDATE SERVER IS UNREACHABLE(アンプリファのアップデートサーバーにアクセスできない)」等と表示されます(下図参照)。



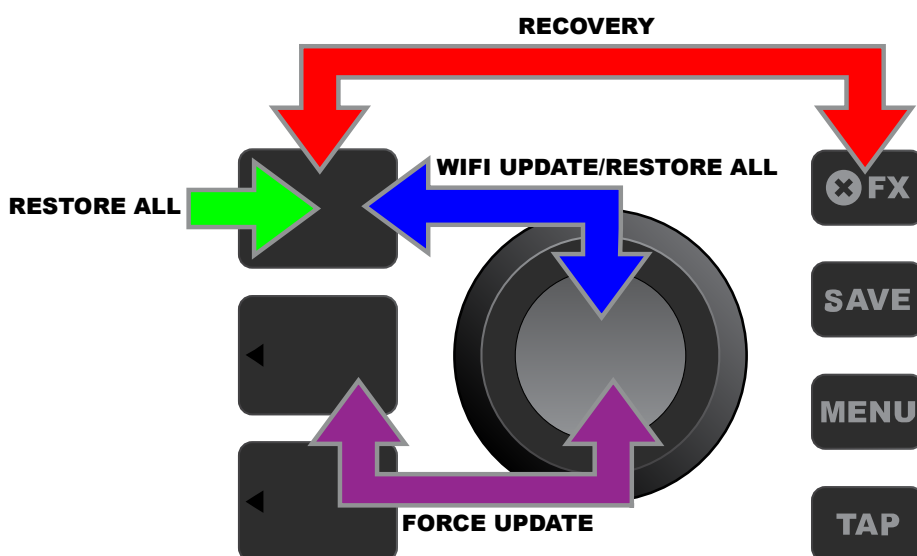
前出のファームウェアアップデートに加え、Mustang GT ユーザー自身で実行できる、工場出荷状態復元機能を含む、いくつかのスタートアップモードがあります。詳しくは次の通りです。

RESTORE ALL(すべてを復元): アンプの最新のファームウェアアップデートに含まれる、プリセットおよびアンプ設定を工場出荷状態に復元するには、プリセットレイヤーボタンを5秒間長押ししながら、アンプの電源を入れます(下図の緑色の矢印)。この機能には、メニューユーティリティボタンを押して、「AMP SETTINGS」(アンプ設定、45ページ参照)からもアクセスできます。

WIFI UPDATE/RESTORE ALL(WiFiアップデート／すべてを復元): ファームウェアアップデートと上のスタートアップオプション(すべてを復元)を一緒におこなうには、エンコーダーとプリセットレイヤーボタンを同時に5秒間長押ししながら、アンプリファの電源をオンにします(下図の青色の矢印)。

FORCE UPDATE(強制アップデート): Mustang GTのアップデート手順の中で、先に例示したような問題が生じた場合、エンコーダーとシグナルパスレイヤーボタンを同時に5秒間長押ししながら、アンプリファの電源をオンにすることで、“Force Update”(強制アップデート)モードを開始できます(下図の紫色の矢印)。

RECOVERY(リカバリー): プリセットを含む、元のファームウェアバージョンをリカバリーする場合(48ページ”このアンプについて”参照)、プリセットレイヤーボタンと「X FX」ユーティリティボタンを5秒間同時に長押ししながら、アンプリファの電源をオンにします(下図の赤色の矢印)。



FENDER TONE™ アプリ

Mustang GTアンプリファアーの究極の相棒アプリである、**Fender Tone**アプリは、Apple App Store (iPhone)およびGoogle Play Store (Android)で無料でダウンロードできます。Fender Tone をお使いいただくと、Mustang GTの既存の機能を便利に制御できることに加え、Fenderおよび Fender Toneユーザーコミュニティで、追加コンテンツにアクセスできます。たとえば:

- プリセットの検索、ナビゲーション、フィルタリングおよびセクション
- 新規プリセットの作成およびシェア
- プリセットの信号パス編集、並べ替え、追加および削除
- アンプおよびエフェクトモデルのパラメーター調整
- Fender のオフィシャルプリセット、アーティスト シグニチャープリセット、プレイヤープリセット、ジャンルプリセットほかの閲覧、サーチおよびダウンロード
- 信号パスの基礎、アンプモデル、エフェクトタイプほか、音づくりのヒント
- セットリストの作成、セクションおよび管理(個人的なプリセットグループ)
- ユーザーアカウントの管理、製品登録、WiFi設定および Bluetooth設定
- EQ設定の調整
- チューナー機能

プリセットの閲覧と、**Fender Tone**についてのより詳しい情報は、弊社サイト <http://tone.fender.com> をご覧ください。

仕様



Mustang GT40

型式	PR 4399		
所要電力	118 ワット		
出力	40 ワット (2x20 ワット ステレオ)		
入カインピーダンス	1MΩ (ギター)	18kΩ (AUX)	
スピーカー	6.5インチ フル周波数レンジ ×2基		
フットスイッチ	MGT-4 (オプション、部品番号 0994071000)		
フィッテッド アンブカパー	EXP-1 エクスプレッションペダル (オプション、部品番号 2301050000)		
サイズおよび重量	幅: 38.7 cm 高さ: 26.7 cm 奥行き: 21 cm 重量: 6.25 kg		
部品番号	2310100000 (120V) US	2310105000 (220V) ARG	2310108000 (220) CN
	2310101000 (110V) TW	2310106000 (230V) EU	2310109000 (220V) ROK
	2310103000 (240V) AU	2310107000 (100V) JP	2310113000 (240V) MA
	2310104000 (230V) UK		

Mustang GT100

型式	PR 4400		
所要電力	300 ワット		
出力	100 ワット		
入カインピーダンス	1MΩ (ギター)	18kΩ (AUX)	
スピーカー	12インチ Celestion® Special Design G12-FSD		
フットスイッチ	MGT-4 (オプション、部品番号 0994071000)		
フィッテッド アンブカパー	EXP-1 エクスプレッションペダル (オプション、部品番号 2301050000)		
サイズおよび重量	幅: 52.1 cm 高さ: 44.5 cm 奥行き: 25.4 cm 重量: 9.97 kg		
部品番号	2310200000 (120V) US	2310205000 (220V) ARG	2310208000 (220) CN
	2310201000 (110V) TW	2310206000 (230V) EU	2310209000 (220V) ROK
	2310203000 (240V) AU	2310207000 (100V) JP	2310213000 (240V) MA
	2310204000 (230V) UK		

Mustang GT200

型式	PR 4400		
所要電力	450 ワット		
出力	200 ワット (2x100 ワット ステレオ)		
入カインピーダンス	1MΩ (ギター)	18kΩ (AUX)	
スピーカー	12インチ Celestion® Special Design G12-FSD 2基		
フットスイッチ	MGT-4 (付属、部品番号 7710238000)		
フィッテッド アンブカパー	EXP-1 エクスプレッションペダル (オプション、部品番号 2301050000)		
サイズおよび重量	幅: 64.8 cm 高さ: 53.1 cm 奥行き: 25.4 cm 重量: 15.42 kg		
部品番号	2310300000 (120V) US	2310305000 (220V) ARG	2310308000 (220) CN
	2310301000 (110V) TW	2310306000 (230V) EU	2310309000 (220V) ROK
	2310303000 (240V) AU	2310307000 (100V) JP	2310313000 (240V) MA
	2310304000 (230V) UK		

製品の仕様は予告なく変更になる場合があります。

MUSTANG™ GT40 MUSTANG™ GT100 MUSTANG™ GT200

产品中有害物质的名称及含量

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr(VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
箱体	O	O	O	O	O	O
喇叭单元*	O	O	O	O	O	O
电子部分	X	O	X	O	O	O
接线端子	X	O	O	O	O	O
电线	X	O	O	O	O	O
附件	O	O	O	O	O	O
<p>本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。</p> <p>O: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。</p> <p>X: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。</p> <p>注: 含有有害物质的部件由于全球技术发展水平限制而无法实现有害物质的替代。</p>						

*产品含有喇叭单元时有效。

A PRODUCT OF
FENDER MUSICAL INSTRUMENTS CORP.
311 CESSNA CIRCLE
CORONA, CALIF. 92880 U.S.A.

AMPLIFICADOR DE AUDIO
IMPORTADO POR: Fender Ventas de México, S. de R.L. de C.V.
Calle Huerta #279, Int. A. Col. El Naranjo. C.P. 22785. Ensenada, Baja California, México.
RFC: FVM-140508-CIO
Servicio al Cliente: 01(800) 7887395, 01(800) 7887396, 01(800) 7889433

Fender® and Mustang™ are trademarks of FMIC.
Other trademarks are property of their respective owners.
Copyright © 2017 FMIC. All rights reserved.